

仙台版防災教育実践ガイド

(改訂版)



平成 23 年度



平成 24 年度



平成 25 年度



平成 26 年度



平成 27 年度



平成 28 年度



平成 29 年度



平成 30 年度

平成 3 1 年 4 月
仙台市教育委員会

目次

はじめに	1
1 仙台版防災教育の基本的な考え方	2
2 仙台版防災教育の全体像	3
3 「仙台版防災教育実践ガイド（改訂版）」の内容	4
4 仙台版防災教育 全体計画について	4
5 仙台版防災教育における指導事項について	5
仙台版防災教育における指導事項	6
6 仙台版防災教育 各学年の年間指導計画作成の手順	8
7 仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項	9
8 仙台版防災教育 年間指導計画モデル	9
9 仙台版防災教育 授業の実施手順	26
授業づくりのアドバイス	27
（参考）学級活動「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び 健康安全」の学習過程（例）	28

【参考資料】

- 1 仙台市立七郷小学校「防災安全科」
- 2 仙台版防災教育研究推進取組発表校 実践発表資料から（平成28～30年度）
- 3 単元配列表モデル
- 4 防災を含む安全に関する教育のイメージ
- 5 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の活用
- 6 復興ソング
- 7 防災教育に関する資料 リンク集

はじめに

甚大な被害を及ぼした東北地方太平洋沖地震による東日本大震災から8年が経過しました。私たちは、この震災を通して、防災教育の重要性と必要性を改めて認識させられました。そこで、本市の防災教育では、震災以降、児童生徒の自助の力と共助の力の育成に取り組んできました。

平成24年度には、全校に防災主任を配置するとともに、防災教育モデル校18校を中心として、全市的に「新たな防災教育」への取組を開始しました。平成25年度には、防災教育副読本「3.11から未来へ」を市内小中学校の全児童生徒に配付しました。また同年、仙台市立七郷小学校が文部科学省から研究開発学校の指定を受け、新領域「防災安全科」の研究を進めました（4年間の指定）。平成26年度には、仙台市で開催された国連防災世界会議の場において、本市の防災教育の取組を広く内外へ発信しました。平成27年度からは、研究推進取組発表校を指定し、平成32年度までに市内すべての小中学校が、自校の取組について実践発表を行うこととしました。そして、平成28年度には、それまでの「新たな防災教育」から名称を「仙台版防災教育」と改め、各校の児童生徒の発達に段階に応じたより系統的な防災教育を推進することができるように「仙台版防災教育実践ガイド」を作成し、学校・地域の実態に応じた防災教育を実施してまいりました。

「安心を創る 仙台版防災教育」は、第2期仙台市教育振興基本計画における重点施策の一つであり、仙台版防災教育では、震災の教訓や記憶の風化の防止を踏まえつつ、児童生徒の育成に目指す資質・能力を明確にした防災教育年間指導計画を作成し、実践、検証していくことが重要です。

このたび、平成28年度に作成した「仙台版防災教育実践ガイド」を改訂し、2分冊といたしました。改訂版には、新学習指導要領の趣旨を踏まえた内容や年間指導計画モデルなどを掲載しています。また、授業実践例には、防災対応力の育成を図るための実践例や「震災遺構仙台市立荒浜小学校」の活用例等を掲載しています。

各校におかれましては、この「仙台版防災教育実践ガイド（改訂版）」及び「仙台版防災教育実践ガイド（授業実践例）」を参考にしながら、本市防災教育の充実に向け、なお一層の工夫・改善に努めていただきますようお願いいたします。

平成31年4月

仙台市教育委員会
教育長 佐々木 洋

1 仙台版防災教育の基本的な考え方

- (1) 仙台版防災教育は、震災の教訓を生かし、平常時から災害に備え、災害時に自分の命を守り、安全を確保する自助の力、そして、平常時から他の人や地域の力となり、災害時の対応や地域の復興に協力し参画する共助の力を児童生徒に育むことを目指しています。
- (2) 児童生徒に身に付けさせる防災対応力は、平常時における「防災」と、災害時における「災害対応」の双方の力を意味するものです。両者は不可分なものであり、二つの視点を踏まえて、「自助の力」「共助の力」の育成を図ります。

	平常時における 【防 災】	災害時（災害発生時と災害後）における 【災害対応】
自助	災害に備える	自分の命を守り、安全を確保する
共助	他の人や地域の力となる	共に協力し、活動に参画する

- (3) 防災対応力を育むために、学校、地域の特性及び児童生徒の発達の段階を踏まえ、各教科・領域等の防災に関わる指導内容を「教科等横断的な視点」で相互に関連付けた年間指導計画を作成し、教育活動を展開、効果を検証します。
- (4) 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、防災教育を通して育成を目指す資質・能力を「知識及び技能の習得」、「思考力、判断力、表現力等の育成」、「学びに向かう力、人間性等の涵養」の三つの柱に基づき総合的に整理し、それらがバランスよく実現できるように留意します。

「知識及び技能の習得」

災害発生メカニズムや地域に起こりうる災害について理解し、災害時に危険を予測し安全を確保することができるようにするとともに日常的な備えができるようにすることを目指します。

「思考力・判断力・表現力等の育成」

災害における危険を認識し、適切な意思決定や行動選択等、的確な思考・判断ができるようにすることを目指します。

「学びに向かう力、人間性等の涵養」

平常時から、思いやりや感謝の心を醸成し、進んで他の人や地域の力と関わり、地域・家庭・学校が一体となって助け合い、支え合うことを通して、災害発生時などに人として取るべき行動の根底となる心や態度を育むことを目指します。また、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組に努めます。

- (5) 防災対応力の基盤的となる構成要素は「知識」・「技能」・「態度」の三つです。児童生徒が主体性を持って取り組むことができるようにねらいを焦点化して取り組むことが大切です。

2 仙台版防災教育の全体像

防災対応力の育成

【自助の力】 平常時から災害に備え、災害時に冷静に判断し、自らの命を守り、臨機応変に自らの安全を確保できる力

【共助の力】 平常時から進んで他の人や地域の力となり、災害時の対応や地域に協力し参画できる力

平常時における「防災」＋災害時における「災害対応」

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
災害発生メカニズムや地域に起こりうる災害について理解し、災害時に危険を予測し安全を確保することができるようにするとともに日常的な備えができるようにする。	災害における危険を認識し、適切な意思決定や行動選択等、的確な思考・判断ができるようにする。	平常時から、思いやりや感謝の心を醸成し、進んで他の人や地域の力と関わり、助け合い、支え合うことを通して、災害発生時などに人として取るべき行動の根底となる心や態度を育む。

【知識】

防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容

- ・災害の種類や特徴、発生メカニズムや被害
- ・過去の災害や伝承
- ・自然環境や気象
- ・災害防止や復旧・復興
- ・建物の安全や耐震
- ・仙台市や地域の特性と災害の発生
- ・学校や家庭、地域での備え
- ・その他

【技能】

防災や災害に関する 直接的な内容

- ・危険の予測や安全のための判断
- ・身の守り方や避難の仕方
- ・初歩的な応急救護措置やAED等の操作
- ・生き抜く知恵と技能
- ・情報を生かす方法
- ・避難所設営補助
- ・防災用具の基本的な操作
- ・その他

【態度】

防災や災害に関する 間接的な内容

- ・強い心と冷静な行動
- ・感謝や思いやりの心
- ・自然愛護と生命尊重
- ・他者との関わり
- ・被災者の支援
- ・教訓の伝承
- ・夢や目標をもつ心
- ・家庭や地域に役立つこと
- ・その他

各教科

特別活動

総合

道徳科

家庭・地域・関係機関との連携・協力・情報交換

3 「仙台版防災教育実践ガイド」の内容

「仙台版防災教育実践ガイド」は、「改訂版」と「授業実践例」の2冊構成となっています。

「改訂版」には、仙台版防災教育の基本的な考え方や児童生徒の発達の段階に応じて、体系的・系統的な防災教育を実施するための指導事項や年間指導計画、授業の実施手順などが掲載されています。また、参考資料として、仙台市立七郷小学校「防災安全科」や仙台版防災教育研究推進取組発表校の実践事例や「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学等に関する資料も掲載されています。

「授業実践例」には、「仙台版防災教育において年間指導計画に位置付ける事項（P9 参照）」を取り上げた授業実践例が掲載されています。

「改訂版」「授業実践例」ともに、各校が防災教育の年間指導計画を作成したり、防災教育に関する授業を実施したりする際に参考にできる内容となっています。

4 仙台版防災教育 全体計画について

仙台版防災教育の全体計画作成に当たっては、次の内容に留意してください。

- 「杜の都の学校教育」で示している仙台版防災教育の全体像に合致しているか。
- 児童生徒の実態、地域の特性等に触れられているか。
- 教科・領域等との関連について記載しているか。
- 仙台版防災教育副読本の活用について記載しているか。
- 防災対応力の構成要素である「知識」「技能」「態度」に関して記載しているか。

5 仙台版防災教育における指導事項について

仙台版防災教育における指導事項（P 6・P 7）は、研究開発学校として文部科学省の研究指定（H25～H28）を受けた仙台市立七郷小学校の「防災安全科」の「内容の構成と項目」を基に整理しました。

指導事項は、学習指導要領や学習指導要領解説に記載されている防災に関する内容等を、下記のA～Fの六つに分類しています。

- A 災害等の理解に関すること
- B 危険から命を守る方法に関すること
- C 日常の備えに関すること
- D 危険予測・判断に関すること
- E 支援者の基盤に関すること
- F 社会貢献に関すること

A, B, C, Dは主に自助, E, Fは主に共助に関わります。また、六つの内容を20項目に細分化しています。

児童生徒の発達の段階等に応じた指導の目標を設定したり、防災に関する指導を行う学年や教科等を確認したりする際に活用してください。

仙台版防災教育における指導事項

分類	小学校1～2年	小学校3～4年	
A 災害等の理解 【知識】	(1) 災害の種類や特徴	地震や津波、大雨や強風、雷などについて知る。 (生活、特活)	地震や津波、大雨や強風、雷などの特徴を理解する。 (理科、総合)
	(2) 発生メカニズムや被害	地震や津波、大雨や強風、雷などによる危険について知る。 (生活、特活)	地震や津波、大雨や強風、雷などによる被害を理解する。 (理科、総合)
	(3) 過去の災害・伝承	地域に起こった災害を知る。 (生活)	地域に伝わる災害の伝承、地域で起きた災害の被害の様子を知る。 (道徳、総合)
	(4) 災害防止や復旧・復興（公助）	地域の人々が協力して防災に取り組んでいること、地域の災害復旧・復興に関する取組を知る。 (生活)	関係機関による災害復旧や復興、防災の取組を理解する。 (社会)
B 命を守る方法 【知識】 【技能】	(1) 身の守り方や避難の仕方	危険から身を守る方法や避難の仕方、助けを呼ぶ方法を知る。 (体育、特活)	災害等に対応した身の守り方や避難の仕方、119番通報の仕方を理解する。 (体育、特活)
	(2) 情報を生かす方法	家族の連絡先や住所や電話番号などの伝え方を知る。 (国語、特活)	家族と連絡を取り合う方法を理解する。 (特活)
	(3) 応急手当の方法	軽いけがのときは傷口を水洗いすることを知る。 (特活)	軽いけがのときの止血方法、AEDの設置場所を知る。 (体育)
	(4) 生き抜く知恵と技能	水・電気・ガスの大切さを知る。 (生活)	ライフラインと自分たちの生活とのつながりを理解する。 (社会)
C 備え 【知識】 【技能】	(1) 家庭での備え	災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。 (生活)	家庭での設備や物資、食料に関する備えを調べ、大切さを理解する。 (総合)
	(2) 学校や地域での備え（公助）	地域の避難場所や「こども110番の家・店」などを知る。 (生活)	学校の備蓄や地域にある防災に役立つ設備について調べ、災害時への備えを理解する。 (社会)
D 予測・判断 【技能】	(1) 危険の予測	通学路での災害等の危険を考える。 (生活、特活)	学校や家庭、地域での災害等の危険を考える。 (社会)
	(2) 安全のための判断	通学路での災害等の危険を避けるためにどのように行動するかを考える。 (生活、特活)	学校や家庭、地域での災害等の危険を避けるためにどのように行動するかを自分で考える。 (特活)
E 支援者の基盤 【態度】	(1) 強い心と冷静な行動	どんなときでも頑張る心を持ち、大人の指示をよく聞いて行動しようとする。 (道徳)	困ったときにも投げ出さない心を持ち、周りの様子や指示に応じて行動しようとする。 (道徳)
	(2) 感謝や思いやりの心	地域の防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持ち、友達や周りの人に親切にしようとする。 (生活、道徳)	お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを持ち、友達や下級生に対して親切にしようとする。 (道徳)
	(3) 自然愛護と生命尊重	自然の不思議や美しさを感じ取ろうとするとともに、生き物に優しくしようとする。 (生活、道徳)	自然の美しさやすばらしさを感じ取ろうとするとともに、命あるものを大切にしようとする。 (理科、道徳)
	(4) 他者との関わり	自分の思いを相手に伝え、友達や近所の人たちと関わろうとする。 (生活、特活)	互いに思いを伝え合い、地域の行事などに参加して周りの人とつながろうとする。 (特活)
F 社会貢献 【態度】	(1) 被災者の支援	人の役に立ちたいという気持ちを持って行動しようとする。 (道徳、特活)	ボランティア活動について知り、自分たちにできることを考えようとする。 (道徳、総合)
	(2) 教訓の伝承	学校で学んだ防災のことを家族に伝えようとする。 (国語)	学校で学んだ防災のことを家族や地域に伝えようとする。 (国語、社会、特活)
	(3) 家庭や地域に役立つこと	身の回りの人のために役立つようとする。 (道徳)	家庭のために役立つようとする。 (道徳)
	(4) 夢や希望	ルールや決まりを守り、安全に生活しようとする。 (道徳)	防災の意識を持って安全・安心な生活をしようとする。 (社会、道徳)

※ () は関連が考えられる教科等です。

小学校5～6年	中学校	分類
災害の種類や特性、災害の原因（自然と社会）を理解する。 (社会, 理科)	国土及び地域の自然環境と人々の生活や産業との関係を理解し、起こり得る自然災害を予想する。 (社会, 数学)	(1) 災害の種類や特徴
災害の発生メカニズムを理解する。(5年で気象, 6年で地震と津波) (理科)	科学的な知識を生かして、自然現象と災害を関連付けて状況を判断する。 (数学, 理科)	(2) 発生メカニズムや被害
東日本大震災や過去の災害の被害の様子、伝承を理解する。 (社会, 理科)	日本の気象がもたらす恵みと災害について記録や資料を用いて調べ、自然と人間との関わりについて考察する。 (国語, 社会, 理科)	(3) 過去の災害・伝承
国や自治体による災害復旧や復興、防災に関する取組を理解する。 (社会)	国や自治体の取組について成果と課題を知り、地域に応じた防災対策の在り方を考える。 (社会, 理科)	(4) 災害防止や復旧・復興 (公助)
災害等やその場の状況に応じた身の守り方や避難の仕方を理解する。 (体育, 特活)	自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることを理解し、対応と備えを理解する。 (保健体育)	(1) 身の守り方や避難の仕方
災害時の心の変化と行動、災害時に必要な情報と入手の仕方を理解する。 (社会, 理科)	災害心理を理解し、正しい情報入手とその信頼性の吟味の方法を理解する。 (技術)	(2) 情報を生かす方法
出血や打撲をしたときの簡単な手当の仕方、AEDの機能を理解する。 (体育)	心肺蘇生、AEDの使用方法などの応急手当や負傷者搬送の方法を理解し、緊急時に判断して行動できるようにする。 (保健体育)	(3) 応急手当の方法
ライフラインが止まったときの対処法を理解する。 (家庭)	迅速で的確な情報提供のための観測装置や通信網、より安全性の高い建築物の設計・開発など、地震に備える科学技術について知る。 (理科)	(4) 生き抜く知恵と技能
家庭での設備や物資、食料に関する備えを調べ、工夫や必要性を理解する。 (家庭, 特活)	家の中や周囲の安全性、物資等の備え、家族の安否確認の方法などについて日常的に家族で話し合い点検を行う必要性を理解する。(家庭, 特活, 総合)	(1) 家庭での備え
学校の備蓄や地域にある防災に役立つ設備を調べ、工夫や災害時への備えを理解する。 (社会)	公所における、被害の軽減や災害後の生活に備える「減災」の視点を理解する。(社会, 特活, 総合)	(2) 学校や地域での備え (公助)
場所や時刻など、様々な状況を想定して危険を予測する。 (特活, 総合)	災害時に起こり得る危険を状況に応じて具体的に予測し、安全確保の手順や優先順位を整理する。 (特活, 総合)	(1) 危険の予測
場所や時刻など、様々な状況による危険を避けるためにどのように行動するかを自分で判断する。 (特活, 総合)		(2) 安全のための判断
困難に直面しても負けない強い心を持ち、状況に応じて落ち着いて行動しようとする。 (道徳, 特活)	困難に直面しても負けない強い心を持ち、冷静な判断の基、目的の実現に向けて行動しようとする。 (道徳)	(1) 強い心と冷静な行動
お世話になっている方々に感謝の気持ちを持ち、困っている人に対して親切にしようとする。 (道徳)	周囲の方々の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、自己と他者の絆を深めようとする。 (道徳)	(2) 感謝や思いやりの心
畏敬の念を持って自然の力を感じようとするとともに、命を見つめ、自他の生命を尊重しようとする。 (理科, 道徳)	自然に対する畏敬の念を深めるとともに、生命の連続性や有限性を理解し、かけがえのない全ての生命を尊重しようとする。 (道徳)	(3) 自然愛護と生命尊重
互いの良さを認めながらコミュニケーションを取り、地域の行事などに参加してつながりを持つようとする。 (道徳, 特活)	中学生が地域の力として期待されていることを自覚し、地域で行われている様々な活動への参加を通して、共助の体制を築こうとする。(道徳, 特活)	(4) 他者との関わり
他地域で災害が起きたとき、被災した人たちのために自分たちができることを考えて、支援しようとする。 (図工, 特活, 総合)	災害が起こった地域の方々のために、被災経験やその後の学びを生かして、支援しようとする。 (美術, 英語, 特活, 総合)	(1) 被災者の支援
学校で学んだ防災のことを教訓として伝えようとする。 (国語, 音楽, 道徳, 特活, 総合)	震災やその後の復興過程の記憶や記録から、語り継ぐべき情報や思いを取り出し、自分たちの言葉で語り継いでいこうとする。(音楽, 特活, 総合)	(2) 教訓の伝承
地域のために役立つようとする。 (道徳, 特活, 総合)	非日常の中でも自他の命を守り、地域社会の一員として他者との関わりや地域社会との関わりを積極的に持とうとする。(道徳, 特活, 総合)	(3) 家庭や地域に役立つこと
防災を通して自分の生き方やこれからの社会に夢や希望を持って生きていこうとする。 (社会, 道徳, 総合)	人生の目標を達成すべく、希望を持って、より良く生きようとする。 (道徳, 特活, 総合)	(4) 夢や希望

6 仙台版防災教育 各学年の年間指導計画作成の手順

防災対応力は、教科等横断的な視点で育成していくものです。そのため、学校・地域の実態に応じて、各教科等の防災にかかわる指導事項を相互に関連付けた自校の年間指導計画の作成が求められます。

作成の手順は、次のとおりです。

ステップ1 学校・家庭・地域等の実態を把握する

学区内の地理、自然等の環境を把握するとともに、地域の教育資源等を押さえます。

また、協働型学校評価の過程で収集した情報や各種調査等の結果などから、〈児童生徒〉〈家庭〉〈地域〉の実態や課題、児童生徒に育成を目指す資質・能力について、防災教育の観点から整理します。

ステップ2 防災教育のねらいを明確にする

実態把握の結果を踏まえ、学校として防災教育のねらいを明確にします。そのねらいを踏まえ、P6・P7の「防災教育における指導事項」に基づき、重点的に指導する必要性のある指導事項を選択します。

ステップ3 指導事項について指導を行う学年や教科等を検討する

ステップ1・2を踏まえ、実際にどのような指導事項について、どの学年やどんな教科等で指導するか、P6・P7の「防災教育における指導事項」等を参照しながら検討します。その際、一つの指導事項に対して、複数の教科等が想定されている場合があることに留意してください。

学習指導要領や同解説に指導内容として記載されている指導事項については、当然、その教科において指導を行うこととなります。学習指導要領や同解説に、指導内容の例示が記載されていない指導事項は、関連する内容を指導できる教科等について検討します。

ステップ4 教科等間、学校行事等との関連を考慮して指導事項の配列を検討する

ステップ3で、指導事項としてリストアップしたものについて、教科等間、学校行事等との関連などを考慮し、指導事項の配列を考えます。指導事項をすべて網羅的に配列しようとはせず、学校の実態に応じて、重点化、焦点化し、教科間のつながりを意識して指導計画を作成することが大切です。

ステップ5 防災教育の年間指導計画を作成する

ステップ1～4までの検討の結果を、年間指導計画の書式で表現します。書式に決まりはありませんが、教育指導課で提示している様式（仙台市教育センターHPからダウンロード可）を参考に、柔軟で実効性のある計画を作成してください。

作成上のワンポイントアドバイス

- ステップ1～5について、いったん学年等の小単位で行い、学年カリキュラムを作成した後、学年間の関係や指導時期等を整理し、学校全体の年間指導計画を作成するという方法が考えられます。
- 各学年の年間指導計画を構想する際に、単元配列表等（P58～P61参照）を活用する方法もあります。

7 仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項

東日本大震災の教訓を生かした防災対応力の育成を図るため、特に次の事項について、各学年の年間指導計画に適宜位置付けることとします。

- 1 学区内の地理，気象条件等，環境や実態に応じた防災に関する活動の実施
- 2 仙台版防災教育副読本の活用
- 3 東日本大震災の体験者からの講話等，震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組
- 4 学区内等の学校同士や保護者，地域との合同による防災訓練の実施
- 5 復興ソングの継承

なお，これらの事項を取り上げた授業実践例を「仙台版防災教育実践ガイド 授業実践例」に示しましたので参考にしてください。

8 仙台版防災教育 年間指導計画モデル

年間指導計画は、「作成の手順」で示したとおり，学校の実態に応じて，防災教育のねらいを明確にして作成します。作成に当たっては，児童生徒の実態について職員間で情報交換を進める中で課題を共有することや，教科や教材，指導法等の検討を行うことを通して，職員間の意識を共有することが大切です。また，このことが，指導の効果を高めることにもつながります。

各学校の自然環境及び想定される災害等に違いがあるため，このガイドでは，仙台市内の「津波による災害等が想定される地域」・「建物の倒壊による災害等が想定される地域」・「土砂崩れによる災害等が想定される地域」・「洪水・浸水による災害が想定される地域」等，それぞれの災害を想定した，四つの地域における小学校低・中・高学年及び中学校の年間指導計画モデルを例示しましたので参考にしてください。

【仙台版防災教育 年間指導計画モデル】

- 津波による災害等が想定される地域の小学校低・中・高学年及び中学校の年間指導計画モデル
- 建物の倒壊による災害等が想定される地域の小学校低・中・高学年及び中学校の年間指導計画モデル
- 土砂崩れによる災害等が想定される地域の小学校低・中・高学年及び中学校の年間指導計画モデル
- 洪水・浸水による災害が想定される地域の小学校低・中・高学年及び中学校の年間指導計画モデル

想定される自然災害等の例

- ・大地震 ・大津波 ・大雨 ・増水 ・河川洪水 ・土石流（地すべり）
- ・土砂崩れ ・暴風 ・たつ巻 ・落雷 ・降ひょう ・大雪 ・なだれ 等

派生して発生する災害等の例

- ・建物の火災 ・森林火災 ・液状化 ・地割れ ・倒木 ・建物の倒壊
- ・危険物の落下，散乱 ・交通網のまひ ・道路の寸断 ・ガス漏れ
- ・感染症の流行 ・異常発生（植物，動物，昆虫等） 等

なお，防災に関連する教科・単元を全て網羅するのではなく，重点的に取り組む指導事項を精選し，教科等間，学校行事等との関連を考慮して配列することや，全職員が「この指導事項は，この学年で重点的に行う」という意識を共有することが肝要です。

津波による災害等が想定される地域の 小学校低学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	生 活	特 活		道徳科	
4	交通安全教室 避難訓練（避難経路 確認）		・【1年】学校 をたんけんし よう（生活）	・登下校の安 全D (1) ・避難経路の 確認D (1) ・非常時下校 体制の確認C (1)		大地震 大津波	
5	故郷復興プロジェクト① 集団下校訓練		・【2年】まち たんけん	・あの日3.11 ☆A (3)		・家族とのさい 会☆E (3)	
6	12日 宮城県民防災の日 避難訓練			★じしんがお こったらどう するの☆B (1)			
7	故郷復興プロジェクト② 引き渡し訓練	・水遊び、着衣水泳 (体育) B (1)	・家のまわり 学校のまわり ☆D (1)			・夏休みの 生活 B (1)	
8	(地域行事への参加)						
9	1日防災の日 校外学習（動物園）		大雨、増水、河川洪水、浸水、 落雷、暴風、地震、津波	・ぼうさいリ ュックを用い しよう☆C (1)		・動物たちのい のち☆E (3)	
10	地域合同防災訓練			・ぼうさいく んれんにさん かしよう ☆B (1) C (1)			
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③		・ふっこうを めざして（生 活）☆A (4)	・つなみにつ いてしろう☆ A (1) (2)			
12	避難訓練（火災） 集団下校訓練	火災		・ひなんの仕 方を考えよう ☆B (1) (2)		・冬休みの 生活 B (1)	・【2年】じぶ んがしんごう きE (2)
1	17日 防災とボランティアの日					・きぼうの 光☆A (3) (4)	・【1年】おう だんほうで E (2)
2						★ふるさと を元気に☆ A (1) F (3)	・【1年】いの ちがあってよ かったE (3)
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④			・ぼうさい知 しきをチェッ クしよう☆C (1)			

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

津波による災害等が想定される地域の 小学校中学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活		道徳科	
4	春の交通安全	・【3年】学校のまわり（社会）C(2)	大地震、津波	・避難経路の確認、登下校の安全 B(1)			
5	故郷復興プロジェクト① 集団下校訓練 家庭訪問		大地震、津波	・避難の仕方を考えようB(1)☆		・考えよう 友達たちのこと☆E(2)	
6	12日 宮城県民防災の日 避難訓練 引き渡し訓練	・【3年】市の様子（社会）C(2) ・地しんについて知ろう☆A(1)(2)	・防災マップづくり 大地震、津波	・避難訓練事後指導 ・災害が起きたら☆B(1)		・希望の詩～「ない」～☆F(2)	
7	故郷復興プロジェクト② 交通安全教室	・浮く・泳ぐ運動（体育）B(1)	津波、 大雨、 増水、 河川 洪水、 浸水、 落雷、 暴風	★歌い継ごう～ 「復興ソング」 ☆F(2)		・夏休みの 過ごし方 D(1)(2)	・大切なこと☆E(2)
8	（地域行事への参加）					・地域行事 への参加	・【4年】「もっこ」を せおってF(1)
9	1日防災の日 避難訓練（不審者）	・着衣水泳（体育） B(1) ・雨・風・雷について知ろう☆A(1)(2)		・自分で決める☆ ★「台風・大雨の 災害から命を守る」☆D(2)		・【3年】一さつのお くりものE(2)	
10	中学校区合同防災 訓練		★命を守る 非常食☆C (1)(2)	・家族ぼうさい会 ぎをひらこう☆ C(1)		・【4年】ふるさとを 守った大イチョウE (3)	
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③						
12	避難訓練（火災） 集団下校訓練	・けがをしたときは ☆B(3)	津波、 大雨、 増水、 河川 洪水、 浸水、 落雷、 暴風	・避難訓練事後指導		・冬休みの 過ごし方 D(1)(2)	・【4年】しょうぼう だんのおじいさんE (2)
1	17日 防災とボランティアの日	・【3年】古い道具 とむかしのくらし （社会）C(1)	・たかさんの おうえん☆				
2				・ぼうさい知しき をチェックしよう☆		・つたえよ うわたした ちのことば で☆	・【3年】おじいちゃん、 おばあちゃん、 見ていてねE(3)
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④			・仙台のさいがい 年びょう・ふっこ う年びょう☆			

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

津波による災害等が想定される地域の 小学校高学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道徳科		
4	避難訓練（地震） 春の交通安全	・ふるさと復興 ルーム見学（学活） ・【6年】物の燃え 方と空気 （理科）A (1)	火災		・避難経路の 確認、登下校 の安全B (1)	大地震 大津波	・【6年】うちらねこ の手ボランティア F (1)
5	故郷復興プロジェクト① 引き渡し訓練 家庭訪問			大地震、大津波	・非常時下校 体制の確認、 ★大災害に備 えよう☆B (1)	・大きな災 害と人間の 心の動き☆ E (4)	
6	12日 宮城県民防災の日 全校一斉防災学習 野外活動	★防災人として の知恵（体育）～ けがの手当～☆ B (3)		★語り継ご う！東日本 大震災☆F (2) ※震災 遺構活用	大地震、 大津波	・家族防災 会議を開こ う☆C (1)	
7	故郷復興プロジェクト② PTA等との地区 巡視	・着衣水泳（体育） B (1) ・「希望の道」合唱 F (2)		・チャレンジ 子供防災モニ ター☆D (1)	・わが家の 防災カード の記入C (1)	・夏休みの 生活 D (1) (2)	・【6年】土石流の中 で救われた命E (2)
8	（地域行事への参加）		大雨、増水、河川洪水、 浸水、 落雷、暴風				
9	1日 防災の日	・【5年】台風と天 気の変化（理科）A (2)		・地震を乗り 越えようとし た先人の知恵 ☆F (2)			・一番大切なことは ☆F (3)
10	大雨、増水、 河川洪水	・【5年】流れる水 のはたらき（理科） A (1) (2) ・【6年】大地のつ くりと変化（理科） ☆A (2) E (3)	大地震、 大津波、 液状化	・「復興のた めに何がで きるか考え よう」E (4) F (1) (3)			・【5年】わたしのボ ランティア体験 F (1) (3)
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③ 避難訓練（火災） ※津波防災の日	・【5年】情報化し た社会とわたした ちの生活（社会）B (2)	津波、建物の火災				
12	全校一斉 防災学習授業日 避難訓練（業間）	・【6年】震災復興 の願いを実現する 政治（社会）A (4)			・未来へつな ぐ☆F (2) (4)	・冬休みの 生活D (1) (2)	・【5年】コースチャ ぼうやを救えE (3)
1	17日 防災とボランティアの日			・復興のた めにできること D (2)			・【6年】東京大空襲 の中でE (3)
2		・わたしたちの生活 と環境（社会）☆ A (1)					・【6年】小さな連絡 船「ひまわり」F (1) (3)
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④	・ともに生きる生活 （家庭）☆B (4)			・仙台の災害 年表・復興年 表☆		・【5年】一本松は語 ったE (3)

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

津波による災害等が想定される地域の 中学校 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道徳科		
4	避難経路確認 合宿	・集団訓練（保体） B (1) ・情報の信頼性（技術） B (2)		・避難方法と避難経路の確認 C (1)	大地震 大津波	・花と緑で人々に 笑顔を☆ F (3)	
5	学校防災の日①（避難 訓練） 故郷復興プロジェクト① （あいさつ）	・応急処置の方法 （保体）☆	大地震、大津波	・避難訓練 ・消防士からの 講話 C (1) D	・地域あいさ つと小中合同 ゴミ拾い活動 E (4)	・【3年】くちび るに歌をもて E (3)	
6	12日 みやぎ県民防災の日 中総体	・身近な地域の歴史 （社会）C (2) ・心肺蘇生方法（保 体）☆B (3)		・災害発生時 の対応B (1) D	★自然災害に 備えよう☆A (2) (3)		
7	合唱コンクール 故郷復興プロジェクト② （星に願いを）	・空を見上げて（国 語）A (3) ・AEDの使い方 ☆（保体）B (3)		★災害心理と 正しい情報の 入手☆B (2)	・地域あいさつ 運動と小中合 同ゴミ拾い活 動E (4)	・【3年】一冊の 漫画雑誌 E (2)	
8	リーダー研修会 （小・中合同） ※地域の行事への 参加		大地震、大津波、大雨、 増水、河川洪水、浸水、 落雷、暴風、液状化 等	・リーダー研修 会☆D			
9	1日 防災の日 文化祭 地域合同防災訓練 （地域・保護者・小学 校）	・着衣泳（保体）B (1) ・古典に残る災害を 読んでみよう☆ A (3)	・モザイクア ートづくりF (1)	・防災基礎知 識講座（小学 生、地域）D	★避難所開設 の時、私たち にできること ☆F (3)	・心に寄り添う ☆E (4)	
10	学校防災の日② （引き渡し訓練） 学区民運動会 避難訓練（火災）	・地方自治と私たち （社会）☆A (4) ・案内状の書き方（国 語）E (3)		・防災マッ プづくり （地域） C (1) (2)	・避難訓練の 意義☆C (1) ・引き渡し訓 練C (1)	・地域あいさつ 運動と小中合 同ゴミ拾い活 動E (4)	
11	5日 世界津波の日 地域クリーン作戦 （地域） 故郷復興プロジェクト③	建物の火災	・メモリアル館訪 問C (2)	・マップ作 成のため の地域歩 きC (2)	・巨大壁画づく りE (2)	・地域クリー ン作戦、地域 あいさつ運動 F (3)	・【2年】田老の 生徒が伝えた ものE (1)
12	学校防災の日③ （考動議会）	・震災文庫を作ろう （国語）E (3)	・考動議会（縦割り活動） D ・防災マップ調査結果発表会 D F (2)				・【2年】震災の 中でF (3)
1	17日 防災とボラン ティアの日 ・復興展 （地域・保護者）	・大地の変化(理科)A (2)(3)B(4) ・快適な住まい方(家 庭)☆C(1)	大地震、大津波、 液状化	・災害時の安 全な行動につ いてC (1)	★「復興への 歩み」を語り 継ごう☆ E (4)	・一歩一歩力強 く語り部として ☆F (2)	
2	・地域向け復興展（地 域・保護者）	・心身の機能の発達 と心の健康（保体） ☆B (1)			★自分を守る ☆D		
3	11日みやぎ鎮魂の日 学校防災の日④ （震災セレモニー） 故郷復興プロジェクト④		★震災を語り継 ごうF (2)	・巨大壁画披露 F (2)	・地域あいさ つ運動、小中 合同ゴミ拾い 運動E (4)		

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

建物の倒壊による災害等が想定される地域の 小学校低学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	生 活	特 活	道徳科		
4	交通安全教室 避難訓練（避難経路 確認）		・[1年]学校 をたんけんし よう 大地震、大津波	・登下校の安 全D (1) ・避難経路の 確認D (1) ・非常時下校 体制の確認C (1) 建物の倒壊 道路の寸断 倒木			
5	故郷復興プロジェクト① 集団下校訓練		・[2年]ま ちたんけん	・あの日3.11 ☆A (3)			・家族とのさい会☆ E (3)
6	12日 宮城県民防災の日 避難訓練		大地震、建物の倒壊 道路の寸断、倒木	★じしんがお こったらどう するの☆B (1)			
7	故郷復興プロジェクト② 引き渡し訓練	・水遊び、着衣水泳 (体育) B (1) ・家のまわり学校の まわり☆D (1)	大雨、増水、河川洪水、浸水、 落雷、暴風、地震、津波			・夏休みの 生活 B (1)	
8	(地域行事への参加)						
9	1日防災の日 校外学習		大雨、洪水、河川氾濫、 浸水、地震、津波、	・ぼうさいリ ュックを用い しよう☆C (1)			・動物たちのいのち ☆E (3)
10	地域合同防災訓練		大地震、大津波	・ぼうさいく んれんにさ んかしよう ☆B (1) C (1)			
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③		・ふっこうを めざして ☆A (4)	・つなみにつ いてしろう☆ A (1) (2)			
12	避難訓練（火災） 集団下校訓練	火災		・ひなの仕 方を考えよう ☆B (1) (2)	・冬休みの 生活 B (1)		・[2年]じぶんが しんごうきE (2)
1	17日 防災とボランティアの日		建物の倒壊 道路の寸断 倒木		・きぼうの 光☆A (3) (4)		・[1年]おうだん ほどうでE (2)
2					★ふるさと を元気に☆ A (1) F (3)		・[1年]いのちが あってよかったE (3)
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④			・ぼうさい知 しきをチェッ クしよう☆C (1)			

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

建物の倒壊による災害等が想定される地域の 小学校中学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活		道徳科	
4	春の交通安全	・【3年】学校のまわり（社会）C(2)	大地震、建物の倒壊 道路の遮断	・避難経路の確認、登下校の安全 B(1)			
5	故郷復興プロジェクト① 集団下校訓練 家庭訪問		大地震、建物の倒壊 道路の遮断	・避難の仕方を考えようB(1)☆ 交通網のまひ			・考えよう 友達たちのこと☆E(2)
6	12日 宮城県民防災の日 避難訓練 引き渡し訓練	・【3年】市の様子（社会）C(2) ・地しんについて知ろう☆A(1)(2)	・防災マップづくり 大地震、建物の倒壊 道路の遮断	・避難訓練事後指導 ・災害が起きたら☆B(1)			・希望の詩～「ない」～☆F(2)
7	故郷復興プロジェクト② 交通安全教室	・浮く・泳ぐ運動（体育）B(1)		★歌い継ごう～「復興ソング」☆F(2)		・夏休みの過ごし方D(1)(2)	・大切なこと☆E(2)
8	（地域行事への参加）		津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風 建物の倒壊 道路の遮断・倒木			・地域行事への参加	・【4年】「もっこ」をせおってF(1)
9	1日防災の日 避難訓練（不審者）	・着衣水泳（体育）B(1) ・雨・風・雷について知ろう☆A(1)(2)		・自分で決める☆ ★「台風・大雨の災害から命を守る」☆D(2)			・【3年】一さつのおくりものE(2)
10	中学校区合同防災訓練		★命を守る非常食☆C(1)(2)	津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風 建物の倒壊 道路の遮断 倒木			・【4年】ふるさとを守った大イチョウE(3)
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③						
12	避難訓練（火災） 集団下校訓練	・けがをしたときは☆B(3)		・避難訓練事後指導		・冬休みの過ごし方D(1)(2)	・【4年】しょうぼうだんのおじいさんE(2)
1	17日 防災とボランティアの日	・【3年】古い道具とむかしのくらし（社会）C(1)	・たくさんのおうえん☆				
2				・ぼうさい知しきをチェックしよう☆		・つたえようわたしたちのことばで☆	・【3年】おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてねE(3)
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④			・仙台のさいがい年ぴょう・ふっこう年ぴょう☆			

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

建物の倒壊による災害等が想定される地域の 小学校高学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道徳科		
4	避難訓練（地震） 交通教室 たてわり校外活動 春の交通安全	・【6年】物の燃え方 と空気 (理科) A (1)	火災	大地震、建物 の倒壊、道路 の遮断	・避難経路の 確認、登下校 の安全 B (1)	・高学年と して E (4)	・【6年】うちらねこの 手ボランティア F (1)
5	家庭訪問 引き渡し訓練 故郷復興プロジェクト①			・東日本大震 災から学ぶ☆ D (1) (2)	・非常時下校 体制の確認、 ★大災害に備 えよう☆ B (1)	・地域の 一員として☆ F (3)	大地震
6	12日 宮城県民防災の日 全校一斉 防災学習授業日	・【6年】書き手の意 図を考えながら新聞 を読もう（国語） F (2)			・地震に備え て C (1)	・家族防災 会議を開こう☆ C (1) ・落ち着いた行動を☆ E (1)	交通網のまひ
7	故郷復興プロジェクト② P T A等との地区 巡視	・着衣水泳（体育） B (1) ・「希望の道」合唱 F (2)			・夏休みを有 意義に F (3)	・地域のリ ーダーとして F (3)	・【6年】土石流の中で 救われた命 E (2)
8	(地域行事への参加)	大雨、増水、河川洪水、落雷、暴風、道路の遮断、倒木					
9	野外活動 1日 防災の日	・【5年】台風と天気 の変化（理科） A (2) ★防災人としての 知恵（体育）～け がの手当～☆ B (3)					・一番大切なことは☆ F (3)
10	大雨、増水、河川 洪水	・【5年】流れる水のは たらき（理科） A (1) (2) ・【6年】大地のつく りや変化（理科）☆ A (2) E (3)					・【5年】わたしのボラ ンティア体験 F (1) (3)
11	5日 世界津波の日 故郷復興プロジェクト③ 避難訓練（火事）	・【5年】情報化した 社会とわたしたちの 生活（社会） B (2)	建物の火災				
12	全校一斉 防災学習授業日 避難訓練（業間）	・【6年】震災復興の 願いを実現する政治 （社会） A (4)		★語り継ご う！東日本大 震災☆ F (2) ※震災遺構活 用	・家族とのつ ながり☆ C (1)	・冬休みの 過ごし方 D (1) (2)	・【5年】コースチャぼ うやを教え E (3)
1	17日 防災とボランティアの日				・異学年と交 流しよう D (2)		・【6年】東京大空襲の 中で E (3)
2	11日 みやぎ鎮魂の日	・わたしたちの生活 と環境（社会）☆ A (1)					・【6年】小さな連絡船 「ひまわり」 F (1) (3)
3	故郷復興プロジェクト④	・共に生きる生活（家 庭）☆ B (4)		・東日本大震 災から学ぶ ☆ F (1) (3)			・【5年】一本松は語っ た E (3)

★：本ガイドに授業実践例が掲載 ☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

建物の倒壊による災害等が想定される地域の 中学校 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道徳科		
	4	安全な登下校 避難経路の確認	・集団訓練（保体） B (1)	大地震、建物の倒壊、道路の遮断	・避難方法と避難経路の確認 C (1)		・一歩一歩力強く語り部として ☆E (1)
5	集団下校の確認 引き渡し訓練 故郷復興プロジェクト①	・情報の信頼性（技術）B (2) ・応急処置の方法（保体）☆	大地震、交通網のまひ		・引き渡し訓練 C (1)	★自然災害に備えよう☆A (2) (3)	
6	12日 みやぎ県民防災の日 中総体 地域合同防災訓練 （地域・保護者・小学校）	・身近な地域の歴史（社会）C (2) ・心肺蘇生方法（保体）☆B (3)	・めざせエコ生活 C (1) (2)	・災害発生時の対応☆ B (1) D ・防災クロスロードゲーム D	★避難所開設の時、私たちにできること☆F (3)	・一冊の漫画雑誌F (1)	
7	合唱コンクール 故郷復興プロジェクト②	・文字や形で伝える（美術）F (1) ・AEDの使い方☆（保体）B (3)	大雨、増水、河川洪水、落雷、暴風、道路の遮断、倒木	・夏季休業中の生活D			
8	※地域の行事への参加						
9	1日 防災の日 学習発表会	・着衣泳（保体）B (1) ・古典に残る災害を読んでみよう☆ A (3)		・災害発生時の対応☆ B (1) D		・【2年】田老の生徒が伝えたものF (1)	
10	球技大会 避難訓練（火災）	・地方自治と私たち（社会）☆A (4) 建物の火災		・ボランティアで心の輪を広げよう F (1) (3)	・避難訓練の意義☆C (1)	・【2年】震災の中でF (3)	
11	5日 世界津波の日 地域落ち葉拾い（地域） 故郷復興プロジェクト③	・住まいの安全対策、災害への備え（技・家）☆C (1) ・祈りの形（美術）F (1)		★災害心理と正しい情報の入手☆B (2)	・地域落ち葉拾い作戦、あいさつ運動 F (3)	・心に寄り添う☆E (4)	
12		・震災文庫を作ろう（国語）E (3)		・冬季休業中の生活D	・1.17から3.11へ☆ E (4)		
1	17日 防災とボランティアの日	・大地の変化（理科）A (2)(3)B(4) ・わかりやすく伝えるデザイン（美術）F(1)	大地震、液状化	・災害時の安全な行動についてC (1)	★「復興への歩み」を語り継ごう☆ E (4)	・ともに育つ☆ F (3)	
2		・資料の整理、確立（数学）A (1) (2)			★自分を守る☆D		
3	11日みやぎ鎮魂の日 東日本大震災追悼行事 故郷復興プロジェクト④		★震災を語り継ごうF (2)	・春季休業中の生活D	・震災の教訓 F (2)	・約束☆F (4)	

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

土砂崩れによる災害等が想定される地域の 小学校低学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	生 活	特 活		道徳科	
4	交通安全教室 避難訓練（避難経路 確認）		・【1年】学校 をたんけんし よう	・登下校の安 全D (1) ・避難経路の 確認D (1) ・非常時下校 体制の確認C (1)	大地震 土砂崩れ		
5	故郷復興プロジェクト① 集団下校訓練		・【2年】まち たんけん	・あの日3.11 ☆A (3)		・家族とのさい 会☆E (3)	
6	12日 宮城県民防災の日 避難訓練		大地震, 土砂崩れ		★じしんがお こったらどう するの☆B (1)		
7	故郷復興プロジェクト② 引き渡し訓練	・水遊び, 着衣水泳 (体育) B (1) ・家のまわり学校の まわり☆D (1)	大雨, 増水, 河川洪水, 浸水, 落雷, 暴風, 地震, 土砂崩れ		・夏休みの 生活 B (1)		
8	(地域行事への参加)						
9	1日防災の日 校外学習（動物園）			・ぼうさいリ ュックを用い しよう☆C (1)		・動物たちのい のち☆E (3)	
10	地域合同防災訓練			・ぼうさいく んれんにさん かしよう ☆B (1) C (1)	大地震, 大津波		
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③		・ふっこうを めざして ☆A (4)	・つなみにつ いてしろう☆ A (1) (2)			
12	避難訓練（火災） 集団下校訓練	火災		・ひなんの仕 方を考えよう ☆B (1) (2)	・冬休みの 生活B (1)	・【2年】じぶ んがしんごう きE (2)	
1	17日 防災とボランティアの日				・きぼうの 光☆A (3) (4)	・【1年】おう だんはどうで E (2)	
2					★ふるさと を元気に☆ A (1) F (3)	・【1年】いの ちがあってよ かったE (3)	
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④			・ぼうさい知 しきをチェッ クしよう☆C (1)			

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

土砂崩れによる災害等が想定される地域の 小学校中学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活		道徳科	
4	春の交通安全	・【3年】学校のまわり（社会）C(2)	大地震、土砂崩れ	・避難経路の確認、登下校の安全 B(1)			
5	故郷復興プロジェクト① 集団下校訓練 家庭訪問		大地震、土砂崩れ	・避難の仕方を考えようB(1)☆		・考えよう 友達たちのこと☆E(2)	
6	12日 宮城県民防災の日 避難訓練 引き渡し訓練	・【3年】市の様子（社会）C(2) ・地しんについて知ろう☆A(1)(2)	・防災マップづくり 大地震、土砂崩れ	・避難訓練事後指導 ・災害が起きたら☆B(1)		・希望の詩～「ない」～☆F(2)	
7	故郷復興プロジェクト② 交通安全教室	・浮く・泳ぐ運動（体育）B(1)	大地震、土砂崩れ	★歌い継ごう～「復興ソング」 ☆F(2)		・夏休みの過ごし方D(1)(2) ・大切なこと☆E(2)	
8	(地域行事への参加)		津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風土砂崩れ			・地域行事への参加 ・【4年】「もっこ」をせおってF(1)	
9	1日防災の日 避難訓練（不審者）	・着衣水泳（体育）B(1) ・雨・風・雷について知ろう☆A(1)(2)	津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風土砂崩れ	・自分で決める☆ ★「台風・大雨の災害から命を守る」☆D(2)		・【3年】一さつのおくりものE(2)	
10	中学校区合同防災訓練		★命を守る非常食☆C(1)(2) 津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風土砂崩れ	・家族ぼうさい会ぎをひらこう☆C(1)		・【4年】ふるさとを守った大イチョウE(3)	
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③		津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風土砂崩れ				
12	避難訓練（火災） 集団下校訓練	・けがをしたときは☆B(3)	津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風土砂崩れ	・避難訓練事後指導		・冬休みの過ごし方D(1)(2) ・【4年】しょうぼうだんのおじいさんE(2)	
1	17日 防災とボランティアの日	・【3年】古い道具とむかしのくらし（社会）C(1)	・たくさんのおうえん☆ 津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風土砂崩れ				
2			津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風土砂崩れ	・ぼうさい知しきをチェックしよう☆		・つたえようわたしたちのことばで☆ ・【3年】おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてねE(3)	
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④		津波、大雨、増水、河川洪水、浸水、落雷、暴風土砂崩れ	・仙台のさいがいの年びょう・ふっこう年びょう☆			

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

土砂崩れによる災害等が想定される地域の 小学校高学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・地域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道徳科		
4	登下校指導 避難訓練（地震） 春の交通安全	・【6年】物の燃え方 と空気 (理科) A (1) 火災	大地震	・避難経路の 確認, 登下校 の安全 B (1)	・気持ちの よいあいさ E (4) ・歩み出す 力強く☆ E (1)	・【6年】うちらねこの 手ボランティア F (1)	
5	家庭訪問 故郷復興プロジェクト①		・地域の宝物 ☆D (1) (2)	・災害時をく らすヒント☆ C (1)	・地域の一 員として☆ F (3)		
6	全校一斉防災学習 避難訓練, 引き渡し 訓練 1 2 日 宮城県民防災の日	・【6年】書き手の意 図を考えながら新 聞を読もう (国語) F (2)	大地震	非常時下校体 制の確認, ★大災害に備 えよう☆B (1)	・家族防災 会議を開こ う☆C (1) ・落ち着い た行動を☆ E (1)		
7	故郷復興プロジェクト② 野外活動 P T A 等との地区 巡視	・着衣水泳 (体育) B (1) ★防災人としての 知恵 (体育) ~けが の手当~☆ B (3) ・「希望の道」合唱 F (2)	大雨, 増水, 河川洪水, 落雷, 暴風, 倒木	・夏休みの過 ごし方 F (3)	・地域のリ ーダーとし て F (3)	・【6年】土石流の中で 救われた命 E (2)	
8	(地域行事への参加)						
9	1 日 防災の日	・【5年】台風と天気 の変化 (理科) A (2)				・一番大切なことは☆ F (3)	
10	大地震, 土砂崩れ	・【5年】流れる水の はたらき (理科) A (1) (2) ・【6年】大地のつく りと変化 (理科) ☆ A (2) E (3)	河川洪水, 土石流	★語り継ご う! 東日本大 震災 ☆ F (2) ※震災遺構活 用		・【5年】わたしのボラ ンティア体験 F (1) (3)	
11	5 日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③ 避難訓練 (火事)	・【5年】情報化した 社会とわたしたち の生活 (社会) B (2) 森林火災		・地域の宝物 ☆F (2) (3)	・立ち上が れ! ぼくらの 復興プロジェ クト ☆ F (1)		
12	全校一斉 防災学習授業日 避難訓練 (業間)	・【10年】震災復興の 願いを実現する政 治 (社会) A (4)		・家族とのつ ながり☆ C (1)	・冬休みの 過ごし方 D (1) (2)	・【5年】コースチャぼ うやを教え E (3)	
1	1 7 日 防災とボランティアの日			大雪, なだれ		・【6年】東京大空襲の 中で E (3)	
2	1 1 日 みやぎ鎮魂の日	・わたしたちの生活 と環境 (社会) ☆ A (1)				・【6年】小さな連絡船 「ひまわり」 F (1) (3)	
3	故郷復興プロジェクト④	・共に生きる生活 (家庭) ☆B (4)		・東日本大震 災から学ぶ ☆F (1) (3)		・【5年】一本松は語っ た E (3)	

★：本ガイドに授業実践例が掲載 ☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

土砂崩れによる災害等が想定される地域の 中学校 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道徳科		
4	安全な登下校 避難経路の確認	・集団訓練（保体） B (1) ・情報の信頼性（技術） B (2)	大地震、大雨、増水、 河川洪水、落雷、暴風、 倒木	大地震	・避難方法と避難経路の確認 C (1)		・花と緑で人々に笑顔を☆ F (1)
5	避難訓練（予告無） 故郷復興プロジェクト① （あいさつ）	・応急処置の方法（保体）☆B (3) ・エネルギー変換に関する技術（技・家） A (2)		地域ハザードマップをつくろう C (1) (2)	・避難訓練☆D	・地域清掃ボランティアで F (3)	・ともに育つ☆ F (3)
6	12日 みやぎ県民防災の日 中総体 地域合同防災訓練 （地域・保護者・小学校）	・身近な地域の歴史（社会）C (2) ・心肺蘇生方法（保体）☆B (3)	・過去の災害から学ぶD	・災害時に中学生ができること F (3)	・災害発生時の対応☆ B (1) D ・引き渡し訓練 C (1)	★避難所開設の時、私たちにできること ☆F (3)	・【3年】一冊の漫画雑誌E (2)
7	合唱コンクール 故郷復興プロジェクト②	・空を見上げて（国語）A (3) ・AEDの使い方☆（保体）B (3)	・被災地から学ぶ（南三陸町）C (1) (2) D	・災害時の安全な行動D ・危険箇所調べD ・夏季休業中の生活D			
8	※地域の行事への参加						
9	1日 防災の日 文化祭 建物の火災、 森林火災	・着衣水泳（保体） B (1) ・古典に残る災害を読んでみよう☆ A (3)		・防災基礎知識講座（小学生、地域）D	★自然災害に備えよう☆A (2) (3)	・心に寄り添う☆ E (4)	
10	避難訓練（火災）	・地方自治と私たち（社会）☆A (4) ・九州地方～火山災害、土砂災害～（社会）A (1) (3)		・災害時に中学生ができること F (3)	・避難訓練の☆D	・【2年】田老の生徒が伝えたものE (1)	
11	5日 世界津波の日 故郷復興プロジェクト③	・近畿地方～震災を乗り越えて～（社会） A (4)	大地震、土砂崩れ 土石流	★災害心理と正しい情報の入手☆B (2)	・地域清掃ボランティアで F (3)	・【2年】震災の中でF (3)	
12		・自然と人間（理科） A (2)		・冬季休業中の生活D			
1	17日 防災とボランティアの日	・大地の変化（理科）☆A(2)(3)B(4) ・天気とその変化（理科）☆A(2)	大地震、土砂崩れ	・災害時の安全な行動についてC (1)	★「復興への歩み」を語り継ごう☆ E (4)	・一歩一歩力強く語り部として☆ F (2)	
2		・心身の機能の発達と心の健康（保体） ☆B (1)	大雨、大雪、なだれ、 降ひょう、落雷、 暴風		★自分を守るD		
3	11日みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④		★震災を語り継ごうF (2)	・3.11に思うこと ・春季休業中の生活D	・地域あいさつ運動、小中合同ゴミ拾い運動E (4)	・約束☆F (4)	

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

洪水・浸水による災害等が想定される地域の 小学校低学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	生 活	特 活	道徳科		
4	交通安全教室 避難訓練（避難経路 確認）		・【1年】学校 をたんけんし よう 大地震、大津波	・登下校の安 全D (1) ・避難経路の 確認D (1) ・非常時下校 体制の確認C (1) 浸水予想域、 河川洪水			
5	故郷復興プロジェクト① 集団下校訓練		・【2年】まち たんけん	あの日 3.11 ☆A (3)		・家族とのさい 会☆E (3)	
6	12日 宮城県民防災の日 避難訓練		地震、津波 (河川氾濫、浸水)	★じしんがお こったらどう するの☆B (1)			
7	故郷復興プロジェクト② 引き渡し訓練	・水遊び、着衣水泳 (体育) B (1) ・家のまわり学校の まわり☆D (1)	大雨、増水、河川洪水、浸水、 落雷、暴風、地震、津波		・夏休みの 生活B (1)		
8	(地域行事への参加)						
9	1日防災の日 校外学習			・ぼうさいリ ュックを用い しよう☆C (1)		・動物たちのい のち☆E (3)	
10	地域合同防災訓練		大雨、洪水、河 川氾濫、浸水、 地震、津波	・ぼうさいく んれんにさん かしよう ☆B (1) C. (1)			
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③		・ふっこうを めざして☆ A (4)	・つなみにつ いてしろろ☆ A (1) (2)			
12	避難訓練（火災） 集団下校訓練	火災	大地震、大津波	・ひなんの仕 方を考えよう ☆B (1) (2)	・冬休みの 生活B (1)	・【2年】じぶ んがしんごう きE (2)	
1	17日 防災とボランティアの日				・きぼうの 光☆A (3) (4)	・【1年】おう だんほどうで E (2)	
2					★ふるさと を元気に☆ A (1) F (3)	・【1年】いの ちがあつてよ かったE (3)	
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④			・ぼうさい知 しきをチェッ クしよう☆C (1)			

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

洪水・浸水による災害等が想定される地域の 小学校中学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活		道徳科	
4	春の交通安全	・【3年】学校のまわり（社会）C(2)	大雨, 浸水	・避難経路の確認, 登下校の安全 B(1)			
5	故郷復興プロジェクト① 集団下校訓練 家庭訪問		大雨, 洪水, 浸水	・避難の仕方を考えよう B(1) ☆		・考えよう 友達たちのこと ☆E(2)	
6	12日 宮城県民防災の日 避難訓練 引き渡し訓練	・【3年】市の様子（社会）C(2) ・地しんについて知ろう ☆A(1)(2)	・防災マップづくり 大地震, 津波	・避難訓練事後指導 ・災害が起きたら ☆B(1)		・希望の詩～「ない」～ ☆F(2)	
7	故郷復興プロジェクト② 交通安全教室	・浮く・泳ぐ運動（体育）B(1)	津波, 大雨, 増水, 河川 洪水, 浸水, 落雷, 暴風	★歌い継ごう～ 「復興ソング」 ☆F(2)		・夏休みの過ごし方 D(1)(2)	・大切なこと ☆E(2)
8	（地域行事への参加）					・地域行事への参加	・【4年】「もっこ」をせおって F(1)
9	1日防災の日 避難訓練（不審者）	・着衣水泳（体育）B(1) ・雨・風・雷について知ろう ☆A(1)(2)		・自分で決める ☆ ★「台風・大雨の災害から命を守る」 ☆D(2)		・【3年】一さつのおくりもの E(2)	
10	中学校区合同防災訓練		★命を守る非常食 ☆C(1)(2)	・家族ぼうさい会ぎをひらこう ☆C(1)		・【4年】ふるさとを守った大イチョウ E(3)	
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③						
12	避難訓練（火災） 集団下校訓練	・けがをしたときは ☆B(3)	津波, 大雨, 増水, 河川 洪水, 浸水, 落雷, 暴風	・避難訓練事後指導		・冬休みの過ごし方 D(1)(2)	・【4年】しょうぼうだんのおじいさん E(2)
1	17日 防災とボランティアの日	・【3年】古い道具とむかしのくらし（社会）C(1)	・たくさんのおうえん ☆				
2				・ぼうさい知しきをチェックしよう ☆		・つたえようわたしたちのことばで ☆	・【3年】おじいちゃん, おばあちゃん, 見ていてね E(3)
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④			・仙台のさいがい年びょう・ふっこう年びょう ☆			

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

洪水・浸水による災害等が想定される地域の 小学校高学年 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容例		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道徳科		
4	避難訓練（地震） 春の交通安全	・ふるさと復興 ルーム見学（学活） ・【6年】物の燃え 方と空気（理科） A (1)	火災		・避難経路の 確認、登下校 の安全 B (1)	大雨・洪水・ 浸水	・【6年】うちらねこの手 ボランティア F (1)
5	故郷復興プロジェクト① 引き渡し訓練 家庭訪問				・非常時下校 体制の確認 ★大災害に備 えよう ☆ B (1),	・大きな災 害と人間の 心の動き ☆ E (4)	
6	12日 宮城県民防災の日 全校一斉防災学習 野外活動	★防災人としての 知恵（体育）～けが の手当～ ☆ B (3)		★語り継ご う！東日本 大震災 ☆ F (2) ※震災 遺構活用	大雨・洪水・ 浸水	・家族防災 会議を開こ う ☆ C (1)	
7	故郷復興プロジェクト② P T A 等との地区 巡視	・着衣水泳（体育） B (1) ・「希望の道」合唱 F (2)		・チャレンジ 子供防災モニ ター ☆ D (1)	・わが家の 防災カード の記入 C (1)	・夏休みの 生活 D (1) (2)	・【6年】土石流の中で救 われた命 E (2)
8	（地域行事への参加）						
9	1日 防災の日	・【5年】台風と天 気の変化（理科） A (2)	大雨， 増水， 河川洪水	・地震を乗り 越えようとし た先人の知恵 ☆ F (2)			・一番大切なことは ☆ F (3)
10	大地震，大津波， 液状化	・【5年】流れる水 のはたらき（理科） A (1) (2) ・【6年】大地のつ くりと変化（理科） ☆ A (2) E (3)		・復興のた めに何がで きるか考え よう」 E (4) F (1) (3)			・【5年】わたしのボラン ティア体験 F (1) (3)
11	5日世界津波の日 故郷復興プロジェクト③ 避難訓練（火災） 津波，建物の火災	・【5年】情報化し た社会とわたした ちの生活（社会） B (2)					
12	全校一斉 防災学習授業日 避難訓練（業間）	・【6年】震災復興 の願いを実現する 政治（社会） A (4)			・未来へつな ぐ ☆ F (2) (4)	・冬休みの 生活 D (1) (2)	・【5年】コースチャぼう やを救え E (3)
1	17日 防災とボランティアの日			・復興のため にできること D (2)			・【6年】東京大空襲の中 で E (3)
2		・わたしたちの生活 と環境（社会） ☆ A (1)					・【6年】小さな連絡船「ひ まわり」 F (1) (3)
3	11日 みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④	・共に生きる生活 （家庭） ☆ B (4)			・仙台の災害 年表・復興年 表 ☆		・【5年】一本松は語った E (3)

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

洪水・浸水による災害等が想定される地域の 中学校 年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活		道徳科	
4	安全な登下校 避難経路の確認 地区生徒会 春の交通安全	・集団訓練(保体)B(1) ・情報の信頼性(技術)B(2) ・様々な自然災害(社会)A(1)	学区内の自然環境, 地理に応じて 大地震, 大雨, 増 水, 河川 洪水, 落 雷, 暴 風, 倒木	・避難方法と避難 経路の確認C(1) ・学区内安全マッ プ確認C(2)	・家庭でできる 災害への備 え①☆C(1) ★自然災害 に備えよう A(2)(3)	・花と緑で 人々に笑顔を ☆F(1)	
5	故郷復興プロジェクト① (あいさつ運動)	・応急処置の方法(保 体)☆B(3) ・エネルギー変換に関 する技術(技・家)A(2) ・復興ソング(音楽)☆ F(2)	・地域ハザード マップをつ くろうC(1) ・地域の浸水 域を確認し ようA(3)	・避難訓練☆D	・地域清掃ボ ランティアF (3)	・ともに育つ F(3)	
6	12日 みやぎ県民防災の日 中総体 地域合同防災訓練	・身近な地域の歴史(社 会)C(2) ・心肺蘇生方法(保 体)☆B(3) ・水中歩行体験(保体) D(1)	・過去の災 害から学 ぶD	・災害時に中 学生ができる ことF(3)	・災害発生時の対 応☆B(1)D ・引き渡し訓練C (1)	★避難所開設 の時, 私たち にできること ☆F(3)	・【3年】一冊 の漫画雑誌 E(2)
7	合唱コンクール 故郷復興プロジェクト②	・空を見上げて(国語) A(3) ・AEDの使い方☆(保 体)B(3)	・被災地か ら学ぶ(沿 岸部)C (1)(2)D	・災害時の安全な 行動D ・危険箇所調べD ・夏季休業中の生 活D	夏季休業中に (家庭でできる 災害への備え ②)☆B(1)		
8	※地域行事への参加						
9	1日 防災の日 文化祭	・着衣水泳(保体)B (1) ・古典に残る災害を読 んでみよう☆A(3)		・防災基礎知識講 座(小学生, 地域) D		・心に寄り添 う☆E(4)	
10	建物の火災, 森林火災 学校林の火災 避難訓練(火災) オーケストラ鑑賞会	・地方自治と私たち (社会)☆A(4) ・九州地方～火山・土 砂災害～(社会)A (1)(3) ・復興ソング(音楽)☆ F(2)	大地震, 土砂崩れ, 土石流, 火山噴火	・災害時に中 学生ができる ことF(3)	・避難訓練の☆D	・【2年】田老 の生徒が伝え たものE(1)	
11	5日 世界津波の日 故郷復興プロジェクト③	・近畿地方～震災を乗り 越えて～(社会)A (4)		★災害心理と正しい 情報の入手☆B (2)	・地域清掃ボ ランティアF (3)	・【2年】震災 の中でF(3)	
12		・自然と人間(理科)A (2)		・冬季休業中の生 活D	・家庭でできる 災害への備 え③☆C(1)		
1	17日 防災とボラン ティアの日	・大地の変化(理科)☆A (2)(3)B(4) ・天気とその変化(理科) ☆A(2)	大地震, 土砂崩れ 大雨, 大雪, なだれ, 降ひょう, 落雷, 暴風	・1.17から3.11へ ☆F(2) ・災害時の安全な行 動についてC(1)	★「復興への 歩み」を語り 継ごう☆E (4)	・一步一步強 く語り部とし て☆F(2)	
2		・心身の機能の発達と 心の健康(保体)☆B (1)			★自分を守る D		
3	11日みやぎ鎮魂の日 故郷復興プロジェクト④		★震災を 語り継ご うF(2)	・3.11に思うこと ・春季休業中の生 活D	・地域あいさ つ運動, 小中 合同ゴミ拾い 運動E(4)	・約束☆F(4)	

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

9 仙台版防災教育 授業の実施手順

ステップ1 対象となる児童生徒の実態を把握する

- 地域の自然環境及び想定される災害等について、十分吟味します。
- 学習課題は、児童生徒の発達の段階を考慮し、必然性や必要性のあるものにします。
 - ・例えば、幼い兄弟姉妹や高齢者がいる家庭では、非常時の連絡のとり方や防災リュックの中身をどうするかなど、現実に応じた対応を考えることが大切です。また、海岸や河川に近い所で暮らす子供たちにとっては、いざというとき、どのようなルートで、どのように避難すべきかを常に意識しておくことや、「てんでんこ」の考え方をどのように具体化するかなども課題となります。
- 児童生徒や保護者等への防災に関するアンケートを実施したり、教師の観察等による資料を蓄積したりして、児童生徒や家庭の実態をより具体的に把握します。
- 各学年の児童生徒の実態等を踏まえ、各学年で身に付けさせたい防災対応力を具体化します。

ステップ2 指導の目標を吟味する

授業を実施するに当たっては、教科等の目標・内容が、直接的に防災教育の内容・目標に関連しているかを確認します。

- 教科等の目標・内容が直接的に防災教育の目標・内容に関連している場合
教科等の目標への到達を目指すことが、防災教育の目標に到達することになります。その際、防災としての目標を明確に意識して授業を行うことが大切です。
- 教科等の目標・内容が直接的に防災教育の目標・内容に関連していない場合
防災教育の目標への到達は間接的なものとなるので、その際には防災教育に関する題材や防災教育の目標に触れる学習の工夫が必要となります。

ステップ3 教材の選択(開発)、指導方法・形態等の検討を行う

- 関連する資料を収集し、学区内を防災の視点で実地調査します。また、専門家に話を伺ったり聞き取り調査を行ったりします。学年内で協力して事前調査を行うことが地域素材の教材化につながります。
- 事前調査の結果を基に、具体的に取り扱う内容を決め、どのような教材(仙台版防災教育副読本などの読み物教材、視聴型の映像教材、スライド教材、疑似体験型教材など)で指導事項を指導することが適切であるか検討します。授業で使用する補助資料も作成します。
- 発達の段階や児童生徒の体験等によっては、直接的に震災等の映像を取り上げず、防災教育に必要な要素として日常から留意させたい題材について重点を置いた教材の活用も検討します。
- 学級を単位として授業を行う場合に加え、学年や全校等での実施、朝や帰りに確保できる時間や、地域と学校間で連携して訓練を行う指導等についても検討しておきます。

ステップ4 指導と評価を行い改善の方向を検討する

- 防災教育は、学校としての一体的な取組が大切です。授業の実施内容や結果について、同一学年の学級間や学校全体で適宜情報を共有し、最新の災害や校内外の状況の変化にも対応していくため、年度途中からでも改善の方向を検討します。
- 1単位時間の授業においては、学習のプロセスをどのように評価するかが大切です。評価の視点や方法を十分検討します。

授業づくりのアドバイス

防災の授業は、主体的な学びの授業をつくることが児童生徒の自助と共助の力を育むことにつながります。

ここでは、児童生徒の学習過程を示しました。

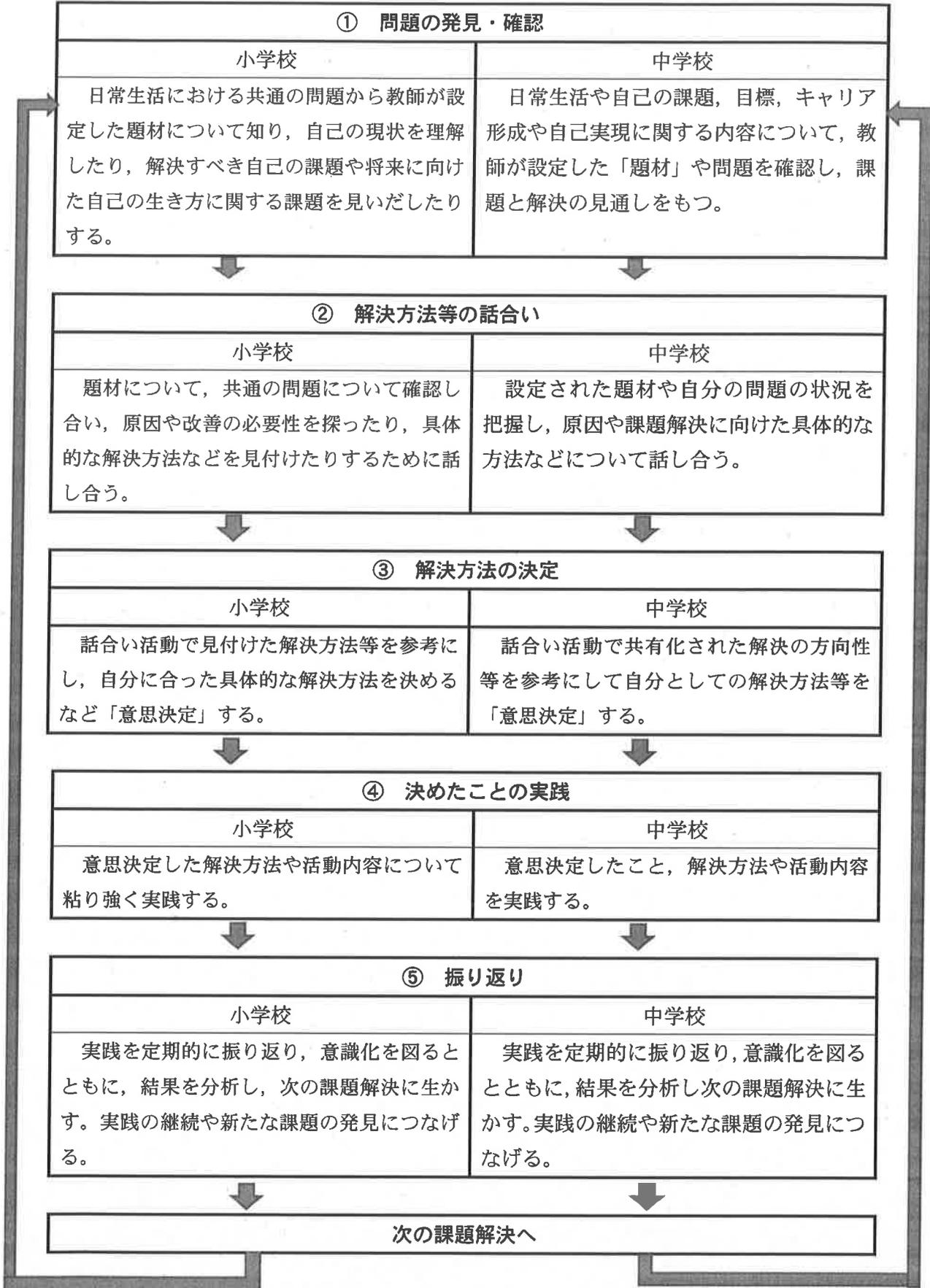
なお、学習評価については、授業に加え、普段の学校の様子や家庭・地域での児童生徒の様子を把握して行うことが大切です。

	主な活動内容
主体的・対話的で深い学び	問題に出会い、課題を設定する <ul style="list-style-type: none">● 地域を取り上げた資料や実生活に関わる問題に出会い、興味・関心を持つ。● 問題場面を自分のこととして捉える。「どうしてだろう」「もっと調べたい」という思いから、追究する学習課題を設定する(課題解決の必然性に気付く)。
	情報を集め、自分の考えを持つ <ul style="list-style-type: none">● 課題解決に対する自分なりの予想を持つ。● 資料・調査・体験などから、課題を解決するための情報を集める。● 情報を整理し、日常生活やこれまでの教科等や防災での学び、体験や知識等を基に、自分や班の考えをまとめる。● 「自分の考えをみんなに伝えたい」という思いを持つ。
	意見を交流し、考えを深める <ul style="list-style-type: none">● 模造紙やKJ法などを用いて、意見の交流を行い、互いの考えを可視化し共有する。● 意見の交流で得た様々な見方や立場を基に、自分の考えを深める。● 意見は発表し合うだけでなく、共感したり疑問を持ったりする。
	解決方法をまとめ、つなげる <ul style="list-style-type: none">● 共有した考えを集約したり精選したりしながらまとめ、よりよいもの(知識)にしていく。● 自己の考えの変容を実感するとともに、これからの自分や集団での生活・行動につなげるための考えを持つ。

参考：学級活動

「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の学習過程（例）

防災教育を学級活動との関連で行う際、次の表のような一連の学習過程が考えられます。



※ 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編（文部科学省）第 3 章 第 1 節 学級活動（2） P 4 4 参照
 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編（文部科学省）第 3 章 第 1 節 学級活動（2） P 4 6 参照

参考資料

1 仙台市立七郷小学校「防災安全科」

※文部科学省指定研究開発学校（平成 25～28 年度）

- (1) 小学校学習指導要領「防災安全科」
- (2) 授業実践例

2 仙台版防災教育研究推進取組発表校 実践発表資料から（平成 28～30 年度）

- (1) 仙台市立高森東小学校（H28）
- (2) 仙台市立上杉山中学校（H28）
- (3) 仙台市立西山小学校（H29）
- (4) 仙台市立南小泉中学校（H29）
- (5) 仙台市立榴岡小学校（H30）
- (6) 仙台市立中田中学校（H30）

3 単元配列表モデル

- (1) 小学校
- (2) 中学校

4 防災を含む安全に関する教育のイメージ ～教科等横断的な視点から教育課程を編成～

5 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の活用

- (1) 「震災遺構仙台市立荒浜小学校」見学プランについて
- (2) 「震災遺構仙台市立荒浜小学校」周辺地図

6 復興ソング

7 防災教育に関する資料 リンク集

小学校学習指導要領 防災安全科

●第 1 目標

日常生活の様々な場面で発生する災害等についての理解を図り、身の回りの危険を予測して、どのように行動すればよいかを判断し、自らの安全を確保しようとする能力の基礎を育てるとともに、他の人や地域の安全に役立つようとする態度を養う。

●第 2 各学年の目標及び内容

〔第 1 学年及び第 2 学年〕

1 目標

- (1) 身近な災害等の危険や助けの求め方を理解できるようにする。
- (2) 災害等による身の回りの危険に気づき、どのように行動すればよいかを考えることができるようにする。
- (3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと関わろうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴等を理解する。
（地震、津波、噴火、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪等）
 - ア) 地震や津波について知る。
 - イ) 大雨や強風、雷などについて知る。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
 - ア) 地震や津波による危険について知る。
 - イ) 大雨や強風、雷などによる危険について知る。
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
 - ア) 地域に起こった災害を知る。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
 - ア) 地域の人々が協力して防災に取り組んでいることを知る。
 - イ) 地域の災害復旧・復興に関する取組を知る。

B 危険から命を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 危険から命を守る方法や避難の仕方を知る。
 - イ) 大人に助けを呼ぶ方法を知る。
- (2) 情報を生かす方法を理解する。
 - ア) 住所や電話番号など、自分の情報の伝え方を知る。
 - イ) 家族の連絡先を知る。

(3) 応急手当の方法を理解する。
ア) 軽いけがの時は傷口を水洗いすることを知る。

(4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
ア) 水・電気・ガスの大切さを知る。

C 日常の備えに関すること

(1) 家庭での備えを理解する。
ア) 家庭での設備に関する備えを知る。
イ) 家庭では物資や食料に関して、どのような備えがあるかを知る。
ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。

(2) 学校や地域での備えを理解する。
ア) 学校で備蓄や備えがあることを知る。
イ) 地域の避難場所や「こども110番の家・店」などを知る。
ウ) 地域には防災に役立つ設備があることを知る。
エ) 避難訓練や防災訓練では、周りの人の指示をしっかりと聞き、落ち着いて行動する大切さを知る。

D 危険予測・判断に関すること

(1) 危険を予測する。
ア) 通学路での災害等の危険を考える。

(2) 安全に行動するために適切に判断する。
ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを考える。
イ) 通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを考える。

E 支援者の基盤に関すること。

(1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。
ア) 大人の指示をよく聞いて行動しようとする。
イ) どんなときでも頑張る心を持って行動しようとする。

(2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。
ア) 地域の防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持って行動しようとする。
イ) 友達や周りの人に親切にしようとする。

(3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
ア) 動植物の世話を通し、自然を大切にしようとする。
イ) 自然の不思議や美しさを感じ取ろうとする。
ウ) 生き物に優しくしようとする。

(4) 他者と関わりを持とうとする。
ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。
イ) 友達や近所の人たちと関わろうとする。
ウ) 自分の思いを相手に伝えようとする。

F 社会貢献に関すること

- (1) 被災者を支援しようとする。
ア) 人の役に立ちたいという気持ちを持って行動しようとする。
- (2) 教訓を伝えようとする。
ア) 学校で学んだ防災のことを家族に伝えようとする。
- (3) 家庭や地域に役立とうとする。
ア) 身の回りの人のために役立とうとする。
- (4) 夢や希望を持とうとする。
ア) ルールや決まりを守り、安全に生活しようとする。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A災害等の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、身近に起こり得る内容を選択して取り扱うものとする。
- (2) 内容の「F社会貢献に関すること」の(4)については、これから自分にはどんなことができるかを考えることができるようにする。
- (3) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(1)及び「C日常の備えに関すること」の(2)については、地域の「こども110番の家・店」の利用と関連付けて取り扱うものとする。
- (4) 内容の「D危険予測・判断に関すること」の(1)及び(2)については、学校や通学路を中心に扱うものとする。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目標

- (1) 地域で起こりやすい災害や過去の災害等を知り、日常の備えについて理解できるようにする。
- (2) 災害等による地域の危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。
- (3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと関わり、家庭や学校の安全のために役立とうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴を理解する。
(地震、津波、噴火、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪等)
ア) 災害とは何かを理解する。
イ) 地震や津波の特徴を理解する。
ウ) 大雨や強風、雷などの特徴を理解する。

(2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。

ア) 地震や津波による被害を理解する。

イ) 大雨や強風、雷などによる被害を理解する。

(3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。

ア) 地域に伝わる災害の伝承を知る。

イ) 地域で起きた災害の被害の様子を理解する。

(4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。

ア) 関係機関による防災の取組を理解する。

イ) 関係機関による災害復旧や復興の取組を理解する。

B 危険から身を守る方法に関すること

(1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。

ア) 災害等に対応した身の守り方や避難の仕方を理解する。

イ) 119番通報の仕方を理解する。

(2) 情報を生かす方法を理解する。

ア) 家族と連絡を取り合う方法を理解する。

(3) 応急手当の方法を理解する。

ア) 軽いけがのときの止血方法を知る。

イ) AEDの設置場所を知る。

(4) 生き抜く知恵と技能について理解する。

ア) ライフラインと自分たちの生活とのつながりを理解する。

C 日常の備えに関すること

(1) 家庭での備蓄について理解する。

ア) 家庭での設備に関する備えを調べ、大切さを理解する。

イ) 家庭での物資や食料に関する備えを調べ、大切さを理解する。

ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。

(2) 地域での備えについて理解する。

ア) 学校の備蓄について調べ、災害時への備えを理解する。

イ) 地域の避難場所や「こども110番の家・店」などの役割を理解する。

ウ) 地域にある防災に役立つ設備について知り、地域の防災を理解する。

エ) 避難訓練や防災訓練では、話をよく聞いて、指示に従ったり安全に行動したりする大切さを知る。

D 危険予測・判断に関すること

(1) 危険を予測する。

ア) 学校や家庭、地域での災害等の危険を考える。

(2) 安全に行動するために適切に判断する。

ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。

イ) 学校や家庭、地域での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。

E 支援者の基盤に関すること

- (1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。
 - ア) 周りの様子や指示に応じて行動しようとする。
 - イ) 困ったときにも投げ出さない心を持って行動しようとする。
- (2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。
 - ア) お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを持って行動しようとする。
 - イ) 友達や下級生に対して思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする。
- (3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
 - ア) 生命のつながりを感じて、自然や動植物を大切にしようとする。
 - イ) 自然の美しさやすばらしさを感じ取ろうとする。
 - ウ) 命あるものを大切にしようとする。
- (4) 他者と関わりを持とうとする。
 - ア) お世話になっている地域の方に自分から挨拶をしようとする。
 - イ) 地域の行事などに参加し、身の回りの人とつながろうとする。
 - ウ) 相手と互いに思いを伝え合おうとする。

F 社会貢献に関すること

- (1) 被災者を支援しようとする。
 - ア) ボランティア活動について知り、自分たちにできることを考えようとする。
- (2) 教訓を伝えようとする。
 - ア) 学校で学んだ防災のことを家族や地域に伝えようとする。
- (3) 家庭や地域に役立とうとする。
 - ア) 家族や地域のために役立とうとする。
- (4) 夢や希望を持とうとする。
 - ア) 防災の意識を持って安全・安心な生活をしようとする。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、その地域に起こり得る内容を選択して取り扱うものとする。
- (2) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(1)のイの119番通報については、社会科と関連付けて4学年で取り扱うものとする。
- (3) 内容の「F社会貢献に関すること」の(3)のアについては、支援と関連付けて、復旧・復興を目指して地域で活動しているボランティアの団体を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「F社会貢献に関すること」の(1)のアについては、道徳の内容とより深く関連付けて取り扱うものとする。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

- (1) 災害等の原因や仕組み、情報の特性、被害を軽減し、災害後に役立つもの等について理解できるようにする。
- (2) 災害等に関する知識や情報、状況等を基に危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。
- (3) 下級生の安全に気配りし、地域の安全のために役立とうとするとともに、将来に夢や希望を持とうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴等を理解する。
(地震、津波、噴火、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪等)
 - ア) 災害の種類や特性を理解する。
 - イ) 災害の原因(自然と社会)を理解する。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
 - ア) 災害の特性と発生メカニズムを理解する。
(5年で気象、6年で地震と津波)
 - イ) 災害による被害を理解する。
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
 - ア) 東日本大震災や過去の災害の伝承を理解する。
 - イ) 東日本大震災や過去の災害の被害の様子を理解する。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
 - ア) 国や自治体による防災に関する取組を理解する。
 - イ) 国や自治体による災害復旧や復興の取組を理解する。

B 危険から命を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 災害等やその場の状況に応じた身の守り方や避難の仕方を理解する。
- (2) 情報を生かす方法を理解する。
 - ア) 災害時の心の変化と行動を理解する。
 - イ) 災害時に必要な情報と入手の仕方を理解する。
- (3) 応急手当の方法を理解する。
 - ア) 出血や打撲をしたときの簡単な手当の仕方を理解する。
 - イ) AEDの機能を理解する。
- (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) ライフラインが止まったときの対処法を理解する。

C 日常の備えに関すること

- (1) 家庭での備えを理解する。
 - ア) 家庭での設備に関する備えを調べ、工夫や必要性を理解する。

イ) 家庭での物資や食料に関する備えを調べ、工夫や必要性を理解する。

ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。

(2) 学校や地域での備えを理解する。

ア) 学校の備蓄を調べ、工夫や災害時への備えを理解する。

イ) 地域の防災に関する取組を理解する。

ウ) 地域にある防災に役立つ設備について調べ、地域の防災を理解する。

エ) 避難訓練や防災訓練では、危険を予測し、安全を確保するために行動する大切さを理解する。

D 危険予測・判断に関すること

(1) 危険を予測する。

ア) 災害の種類による危険を考える。

イ) 場所や時刻など、様々な状況を想定して危険を予測する。

(2) 安全に行動するために適切に判断する。

ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。

イ) 場所や時刻など、様々な状況による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。

E 支援者の基盤に関すること

(1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。

ア) 状況に応じて落ち着いて行動しようとする。

イ) 困難に直面しても負けない強い心を持って行動しようとする。

(2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。

ア) お世話になっている方々に感謝の気持ちを持って行動しようとする。

イ) 困っている人に対して思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする。

(3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。

ア) 自然の美しさや偉大さを感じ、自然を守っていこうとする。

イ) 畏敬の念を持って自然の力を感じようとする。

ウ) 命を見つめ、自他の生命を尊重しようとする。

(4) 他者と関わりを持とうとする。

ア) お世話になっている方々に進んで挨拶をしようとする。

イ) 地域の行事などに参加し、地域とつながりを持とうとする。

ウ) 思いを伝え合い、互いの良さを認めながらコミュニケーションを取ろうとする。

F 社会貢献に関すること

(1) 被災者を支援しようとする。

ア) 他地域で災害が起きたとき、被災した人たちのために自分たちにできることを考えて、支援しようとする。

(2) 教訓を伝えようとする。

ア) 学校で学んだ防災のことを教訓として伝えようとする。

(3) 家庭や地域に役立とうとする。

ア) 地域のために役立とうとする。

(4) 夢や希望を持とうとする。

ア) 防災を通して自分の生き方やこれからの社会に夢や希望を持って生きようとする。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、日本で起こり得る内容を選択して取り扱うものとする。

(2) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(2)のイについては、社会科の情報手段の特徴と関連付けて取り扱うものとする。

(3) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(3)のアについては、児童の実態に応じて骨折ややけどなどのけがも関連付けて取り扱うものとする。

(4) 内容の「C日常の備えに関すること」の(1)のアについては、救急箱についても関連付けて取り扱うものとする。

(5) 内容の「F社会貢献に関すること」の(4)のアについては、被災体験やそれらから学んだ教訓について、次世代にどう伝え、未来にどう生かしていくかを関連付けて取り扱うものとする。

〔特別支援〕

1 目標

(1) 地震や大雨、強風、雷など、生活の中には危険が潜んでいることを理解できるようにする。

(2) 災害等による身の回りの危険に気付き、身を守ろうとする。

(3) 感謝の気持ちを持って身近な人たちと関わり、自分にできることをしようとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

(1) 災害について知る。

ア) 地震や津波について知る。

イ) 大雨や強風、雷などについて知る。

(2) 災害による危険について知る。

ア) 地震や津波による危険について知る。

イ) 大雨や強風、雷などによる危険について知る。

B 危険から身を守る方法に関すること

(1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。

ア) 地震や雷などから身を守る方法や避難の仕方を知る。

イ) 大人に助けを呼ぶ方法を知る。

ウ) 防災ノート(自分の住所, 電話番号, 家族の連絡先, 集合場所)を家族とともに作り, 使えるようになる。

(4) 生き抜く知恵と技能について理解する。

ア) 水・電気・ガスの大切さを知る。

C 日常の備えに関すること

(1) 家庭での備えを理解する。

ア) 家庭での備えがあることを知る。

(2) 学校や地域での備えを理解する。

ア) 地域の避難場所や「こども110番の家・店」などを知る。

D 危険予測・判断に関すること

(1) 危険を予測する。

ア) 学校や家の周りがある災害等の危険を知る。

(2) 安全に行動するために適切に判断する。

ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを判断する。

イ) 通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを判断する。

E 支援者の基盤に関すること

(1) 強い心を持ち, 冷静に行動しようとする。

ア) 大人の指示をよく聞いて行動しようとする。

(2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。

ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持って行動しようとする。

(3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。

ア) 自然や命のすばらしさを感じながら飼育・栽培活動に取り組もうとする。

(4) 他者と関わりを持とうとする。

ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。

F 社会貢献に関すること

(1) 被災者を支援しようとする。

ア) 学校で学んだ防災のことを, 家族や友達に伝えようとする。

(4) 夢や希望を持とうとする。

ア) 安心して, 希望を持って生活しようとする。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(1)及び(2)については, 防災ノートを取り扱うものとする。

(2) 内容の「D危険予測・判断に関すること」の(1)及び(2)については, 学校や通学路を中心に扱うものとする。

●第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 防災安全科と各教科，領域の関連を考慮して適切に指導し，学習したことが相互に密接に結び付くようにすること。また，関連がある内容については防災安全科と各教科，領域でも指導を行うことで，より指導の効果を高めるように工夫すること。
- (2) 防災や復旧・復興のために活動しているボランティア団体や地域の方々などと連携，協力を図りながら，それらを積極的に活用するよう配慮すること。
- (3) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき，道德の時間などとの関連を考慮しながら，第3章道德の第2に示す内容について，防災安全科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 心のケアの観点から取り扱う内容については被災者の心情に配慮しながら，児童にとって心理的な負担の少ないものを取り上げるなど，十分に留意すること。
- (2) 内容の「A 災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については災害の種類や特徴と発生メカニズムを関連付けて取り扱うこと。
- (3) 各学年の内容については，地域や児童の実態に応じて，繰り返し指導したり，防災安全科としては取り上げず，関連の深い他教科，領域を通して指導したりするなど，弾力的に取り扱うこと。

《A 災害等の理解に関する取扱い》

取り扱う災害は，第1，2学年では身近な災害，第3，4学年では地域で起こり得る災害，第5，6学年では日本の災害とする。

A(1)は，全学年ともに扱う。

A(2)，A(3)，A(4)は，第4，5，6学年でそれぞれ1，2項目を選択して扱う。

《B 命を守る方法に関する取扱い》

Bは，全学年ともに，B(1)，B(2)，B(3)，B(4)からそれぞれ1項目を選択して扱う。

《C 備えに関する取扱い》

C(1)またはC(2)は，全学年ともに，それぞれ1項目を選択して扱う。

《D 予測・判断に関する取扱い》

D(1)とD(2)は，全学年ともに扱う。他の項目と関連して扱う。

《E 支援者基盤に関する取扱い》

Eは，主に第1，2，3学年で扱う。

E(1)とE(3)は，教科・領域で扱い，関連を図る。

《F 社会貢献に関する取扱い》

Fは，主に第4，5，6学年で扱う。

F(1)，F(2)，F(3)，F(4)から1，2項目を選択して扱う。

授業実践例	防災安全科
小学校低学年	E(1)(2)

「あんしん あんぜん がっこうせいかつ」

1 目標

校内で大きな地震が起きたとき、身を守るためにはどのように行動したらよいか考えることができるようにする。

2 単元計画（5時間扱い）

時	主な学習活動	資料	評価計画
1	<p>○東日本大震災について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で起きた大きな自然災害について知る。 ・当時の体験談を聞くことで、被害の大きさや生活の様子を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度の 6 年生が作文を読んでいるビデオ ・仙台版防災教育副読本 P.4～7 	<p>東日本大震災の当時の様子について知ることができたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
2	<p>○地震の揺れを体験しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起震車「ぐらら」に乗車し、大きな地震の揺れを体験する。 ・体験したことを基に、感じたことを発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車「ぐらら」 	<p>起震車で大きな地震の揺れを体験し、身を守る必要性を理解することができたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
3	<p>○教室にいるとき、地震が起こったら。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に地震が起きたとき、どんな危険があるか考える。 ・地震が起きたとき、 <p>①「落ちてくるかも、倒れてくるかも、移動してくるかも」しれない場所を見付ける。</p> <p>②「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にどのように行動したらよいか考え、行動してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車「ぐらら」を体験している様子を撮影したビデオ 	<p>教室で地震に遭った際、危険を避けるためにどのように行動したらよいか考えることができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
4	<p>○体育館にいるとき、地震が起こったら。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館で地震が起きたとき、どんな危険があるか考える。 <p>・身を守るものが近くにない場合、頭を守る姿勢をとることが大切であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にどのように行動したらよいか考え、行動してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館の中の写真 ・「だんごむしポーズ」の絵 	<p>体育館で地震に遭った際、危険を避けるためにどのように行動したらよいか考えることができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

5 (本時)	<p>○図書室にいるとき、地震が起これたら。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間、図書室にいたときに、地震が起きたらどんな危険があるか話し合う。 ・地震の後、避難するときに友達が動けなくなっていたらどのように行動するか考える。 	・図書室の中の 写真	<p>大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えようとしていたか。</p> <p style="text-align: right;">【態度】</p>
-----------	--	---------------	--

3 本時の授業について

(1) 防災教育のねらい

大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えることができるようにする。(指導事項：友達や周りの人に親切にしようとする)

(2) 防災教育の視点

自分の身の安全を確保する自助に加えて、友達を助けたいと思って自分にできることを考えようとする共助の素地を養う。

4 授業プランの作成に当たって

(1) 児童の実態

小学校低学年の児童においても、周りの友達がけがをしたときに「大丈夫？」と声を掛けたり教師を呼びに行ったりするなど、友達のことを思いやる気持ちと行動が見られる。しかし、避難訓練などの際に、周りの人のことを考える行動までは見られない。

(2) 指導事項の概要

本単元では、E(1)「強い心と冷静な行動」、(2)「感謝や思いやりの心」を取り扱う。災害時、まずは自分の身の安全を確保することが何よりも大切である。しかし、それは我先に逃げるとか友達を見捨てるとかではない。低学年の児童においても、地震発生時の状況を把握し、自分の身を第一に考えつつ、周りの人のことも考えることができるようにする。

(3) 指導の方向

地震が起きたときの身の守り方を学習した後に行う。休み時間に大きな地震が発生して避難する際、友達が動けなくなっている場面を想定する。「自分だったらどうするか」を考えさせ、様々な意見を共有することで「周りの人も大切にしたい」という気持ちに気付かせていく。さらに、自分の身も守らなければならない状況の中で、周りの人のために自分にできる行動とはどのようなものなのか考えを深めさせ、共助の素地を育てていきたい。

5 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	<p>1 休み時間、図書室で地震が起きたときの危険と身の守り方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本が落ちたり本棚が倒れてきたりするかもしれないから、本棚から離れる。 ・頭に物がぶつからないように、机の下に隠れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台版防災教育副読本 P.7 (震災時の図書室の写真)、P.31 (第4章1「身のまもり方を考えよう」) ・図書室で起こり得る危険に気付かせ、回避する行動を

	<p>2 学習課題を捉える。</p> <p>校庭に避難することになったが、友達が動けなくなっていた。自分ならどうするか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖くて動けなくなってしまったのかな。 ・地震のときにけがをしてしまったのかも。 ・倒れてきた本棚に挟まったのかも。 	<p>考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は危険を回避することができたが、「友達がけがをして動けなくなっている」という新たな条件を提示して、学習課題につなげていく。また、「先生が近くにいないこと」や「すぐに避難するよう放送で指示があったこと」などの状況もつかませる。
展開	<p>3 自分ならどうするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に避難したい。 ・声を掛けてあげれば、怖くなくなるかもしれない。 ・自分も怖いし、避難しなければならない。どうしよう。 <p>4 考えを発表して共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一緒に行こう。」と言って手をつないで避難したい。 ・余震が来るかもしれないし、怖くて何もできないかもしれない。 ・自分では助けられないかもしれないから、先生を呼んで来て助けてもらう。 ・「大丈夫だよ。」と声を掛けたら安心するかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてそうするのか」と問い、友達を思っている行動であることに気付かせる。 ・「助けたいけど自分の身も守らない」という発言を取り上げ、状況によっては自分ではどうすることもできないことに気付かせる。 <p>〈評価〉大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えようとしていたか。 (発表, ワークシート)</p>
終末	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことも友達のこと大切にしたい。 ・周りの人も助けられるようにもっと勉強したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の命も大切にできるかもしれないという思いを持たせたい。

6 板書計画

こうていに ひなんすることになったが、
ともだちが うごけなくなっていた。
じぶんならどうするか かんがえよう。

こわい!
どうしよう

動けなくなっている児童の挿絵

動ける児童の挿絵

あんしんするように、こえをかけてあげる。

てをつないで いっしょににげる。

せんせいを よびにいってくる。

じぶんもきけんだし、どうしよう…

7 評価

大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えようとしている。

授業実践例	防災安全科
小学校高学年	A(1), B(1), D(1)(2)

「学ぼう！わたしたちの生活と大雨」

1 目標

大雨被害について理解し、身の安全を確保する方法について考え、自分の家庭でも生かすことができるようにする。

2 単元計画（4時間扱い）

時	主な学習活動	資料	評価計画
1	<ul style="list-style-type: none"> ○起こり得る気象災害を考えよう。 ・どんな気象災害があるかを挙げ、気象によって引き起こされる災害を確認する。 ・映像を視聴して、大雨や雷、竜巻の恐ろしさを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みやぎ水害記録(昭和61年8月洪水) ・映像資料「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！・被害編」 	<p>気象災害の恐ろしさを知ることができたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○大雨に関する気象用語を調べよう。 ・雨の強さを表す用語 (例) 30～50mm/h (激しい雨) →バケツをひっくり返したように降る ・気象情報：注意報，警報，特別警報，土砂災害警戒情報 ・災害情報：避難準備情報，避難勧告，避難指示 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事（平成28年8月30日の大雨被害） ・「雨と風」（気象庁リーフレット） 	<p>大雨に関する気象用語を理解できたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。 ・大雨が降ってくるという状況を想定し、災害に遭わないためにどのタイミングでどのように行動するかを理由も一緒に考える。 ・自分の考えを気象予報士に確認してもらい、講評を受ける。 ・大雨時の行動にどのような危険があるのか、またどのような心構えを持つ必要があるのかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨ワークショップ用パワーポイント ・大雨ワークショップ用ハザードマップ ・ゲストティーチャー：気象予報士 	<p>大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えていたか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○大雨被害から身の安全を確保するための行動を家族と話し合おう。 ・大雨被害から身を守るためには、日頃からの心構えや適切な行動の選択が必要であることを振り返る。 ・七郷学区で大雨が発生したときに取るべき行動を家族と話し合う計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市内水ハザードマップ（若林区版） ・七郷小学校学区地図 	<p>大雨被害から自分や家族の身の安全を確保するために行動しようという思いを持ったか。</p> <p>【態度】</p>

3 本時の授業について

(1) 防災教育のねらい

大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えることができるようにする。(指導事項：様々な状況による危険を避けるためにどのように行動するかを自分で判断する。)

(2) 防災教育の視点

気象災害から身の安全を確保する方法を考えることが自助、家族構成による避難の仕方を考えることが共助につながる。

4 授業プランの作成に当たって

(1) 児童の実態

気象そのものへの関心はあるものの、大雨を地震や津波のように大きな災害をもたらすものとして意識していない。気象情報の正確な理解はなされておらず、避難の仕方といった大雨被害から身の安全を確保するための行動を考える機会も少ない。

(2) 指導事項の概要

本単元では、指導事項A(1)「災害の種類や特徴」の中の気象災害を取り上げ、B(1)「身の守り方や避難の仕方」、D(1)「危険の予測」、(2)「安全のための判断」を取り扱う。毎年、台風や集中豪雨などによる気象災害が日本各地で起きている。大雨被害の特徴や恐ろしさをつかませ、それが自分たちの生活する地域でも起こり得るものだという認識を高めるとともに、身の安全を確保するための行動を考えられるようにする。

(3) 指導の方向

台風や集中豪雨など、大雨被害の特徴や恐ろしさを過去の資料等から理解できるようにしていく。ここでは、気象情報や災害情報などを理科・社会の学習内容と関連を図りながら取り扱う。さらに、架空の町に台風が接近しているという設定で、避難情報やハザードマップなどを参考にしながら、身の安全を確保するための行動を考えさせたい。

(参考：気象庁主催の「大雨ワークショップ」)

5 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	1 理科や社会の既習内容を確認する。 ・気象情報：注意報，警報，特別警報，土砂災害警戒情報 ・災害情報：避難準備情報，避難勧告，避難指示 2 学習課題をつかむ。 大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。	・気象情報や災害情報で使われている用語は，災害発生のリスクを段階的に伝えていることを確認する。 ・大雨被害から命を守るためには，適切な判断と避難が必要であることに気付かせ，学習課題につなげる。

<p>展開</p>	<p>〈設定と条件〉 日時：10月5日13時～6日13時 場所：地点B（斜面の近く） 住居：木造3階アパートの1階に在住 家族：父，母，私，祖父（歩行困難），車有り</p> <p>3 どのように行動するか考える。 ○どのタイミングで，どんな行動をするか。なぜか。 ・ハザードマップで浸水しそうな所からなるべく離れた道を通るようにする。 ・18時30分の土砂災害警戒情報を待っていたら道が混むかもしれない。もっと早く家を出る。 ・持ち物のことも考えて，準備した方がよいのではないかな。 ・3階建ての家だから上の階に避難できるかもしれない。</p> <p>4 考えた行動を発表し，共有する。 ・少し遠回りにはなるけど，浸水しそうな場所から離れた道路を通して避難場所に向かう。 ・遠回りするなら，18時30分の出発だと渋滞に巻き込まれるかもしれない。だから大雨警報の段階で出発したほうが良い。 ・足の悪い祖父だけでも先に車に乗せて，避難所に向かったら安心ではないかな。 ・足の悪い祖父もいるので，垂直避難をしたら良いと思う。 ・土砂災害が起きそうな場所で木造の家だし，上の階に避難するのはむしろ危険なのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（ハザードマップ）を配付し，自分ならどのように行動するのかを記入させていく。自分の考えを書かせる際には，なぜその行動が身の安全を確保することにつながると思ったのか，根拠を明確にするように声掛けしていく。 根拠を合わせて発表させていく。一つの考えに対して，似たような考えを持った児童にも問い掛けながら，全体で考えを深めさせていく。 上の階に避難する（垂直避難）考えが出た際は，今回の状況では必ずしも安全とは言いきれないことを考えさせるようにする。 友達の考えを聞いて「なるほど」と思ったことや考えが変わったことなどを発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈評価〉大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えていたか。 （発表，ワークシート）</p> </div>
<p>終末</p>	<p>5 学習を振り返る。 ・「命を守る四つのポイント」を確認する。 ①早めの避難を心掛ける。 ②高齢者や小さい子供，けが人への配慮をする。 ③住んでいる場所によって注意することが変わる。 ④避難しないという選択もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 気象予報士が考える「命を守る四つのポイント」を示し，本時で自分たちが考えた行動と照らし合わせてみる。

6 板書計画

<p>〈学習課題〉</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。</p> </div>	<p>みんなが考えた行動</p>	<p>命を守る四つのポイント</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>ハザードマップ</p> </div>	<p>〈設定と条件〉 日時 場所 住居 家族</p>	<ul style="list-style-type: none"> 警報で避難 祖父は先に避難 浸水に注意 上の階へ避難 	<ul style="list-style-type: none"> ①早めの避難 ②人への配慮 ③住む場所への配慮 ④避難をしない選択

7 評価

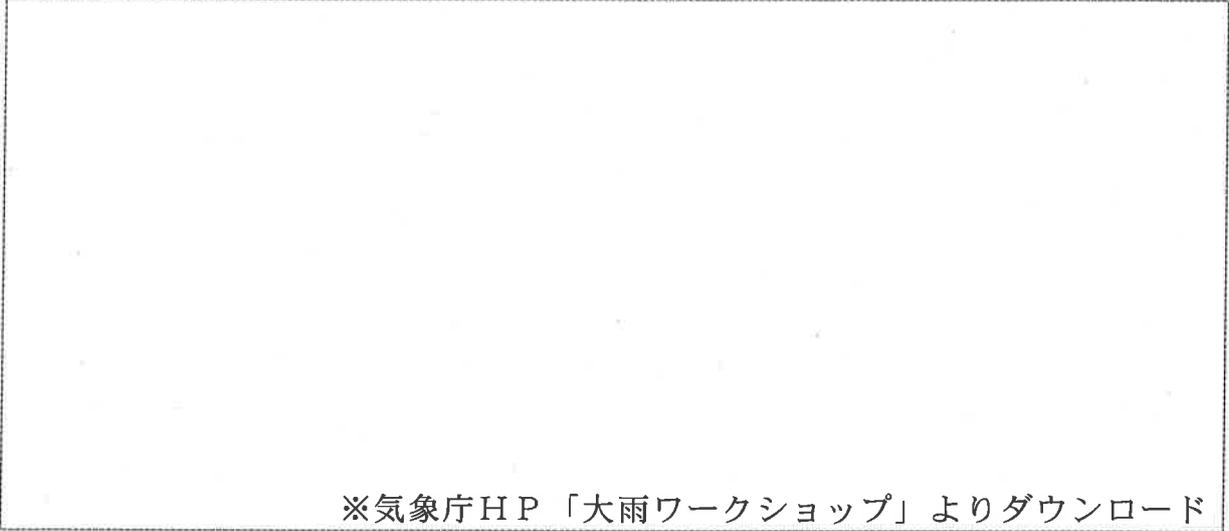
大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えている。

8 ワークシート

〈学習課題〉

大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。

〈ハザードマップ〉



〈設定と条件〉

日時：10月5日13:00～6日13:00
場所：地点B（斜面の近く）
住居：木造3階アパートの1階に在住
家族：父，母，私，祖父（歩行困難） 車有り

〈自分が考えた行動〉

いつ・どんな行動を？	なぜ？

〈「なるほど」と思ったことや考えが変わったこと〉

Empty rectangular box for notes.

仙台市立高森東小学校 第6学年

1 学校・地域の実態について

震災の被害がほとんどなく、水道や電気の面でも苦勞が少なかった地域である。地域では、避難所開設訓練を毎年行い、年々改善を加えている。その防災訓練において、小中学生の希望者が“すこボラ隊”として活躍している。

2 平成28年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童

【共助】非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

【当たり前の指導を、年間通して、どのクラスでも、確実に、行う】

- ① 横断的、全教育活動で行う防災教育
- ② 協働型学校評価目標と関連付けた防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

【自助】集団下校や避難訓練時の様子から、冷静に判断し、行動できる児童が多くなっていることがうかがえる。(緊急放送に対する適切な反応。休み時間に児童だけでも正しい行動。)

【共助】高森地域全体が、上学年は下学年の面倒を見るのが当たり前の雰囲気になりつつある。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

1 普段の授業を防災の観点でつなぐ

本校では、学校行事などで取り組む避難訓練が年3回、集団下校訓練が2回、引渡訓練が1回実施されている(以後、学行等)。学行等の際に重視しているのが、事前と事後の指導である。例えば、6月の“地震に対する避難訓練”を核として、6年生は、道徳の時間において自他のいのちの重さについて考え、訓練直前には学活「避難訓練のめあてを立てよう」で具体を確認する。訓練後には、朝の活動「たてわりショート」において、低学年と遊び、その後、「もしこのとき地震があったらどうする。」と担任が投げかけ、実際の生活と結び付ける。



2 朝のショートタイム“防災学習”で確実に指導

学行等の事前、事後指導に欠かせないのが朝のショートタイム“防災学習”である。学行等の前・後の木曜日(学行等がないときは3週に一度程度)に位置付けられており、全校で・確実に・繰り返し防災について学習する。防災学習では、防災教育副読本も使用し、必要な知識や技能、心構え等を確認している。6年生になると副読本の同じ所を見ることもあるが、いのちに関する大切なことととらえ、繰り返し学習している。

3 共助は活動と生活の中で育む

本校の子供たちを見ていると感心することがある。それは、6年生が何気ない優しい言動を日頃から見せていることである。

たてわり活動では、低学年の手を取り、一緒に遊んだり、鶴を折ったりする姿がこちらこちらで見ることができた。高森東地区防災訓練では、「自分たちでできるのは低学年のお世話」と、進んで幼稚園～低学年に本を読んであげたり、遊びの相手をしたりする“すこボラ隊”の姿があった。そこに、いざという時にしっかり低学年の面倒を見て、地域の一人として働く姿が見て取れる。

特別のことではなく、当たり前のことを、全員で、確実に指導する。それが本校の防災教育である。



	知識		技能		態度		行事等
	教科	生活・総合		特別活動		道徳	
4月				・たてわり活動ロング		◆その向こうに(1章③) ・身近な集団 ・節度ある生活態度	・避難訓練(経路確認) ・家庭訪問
5月	(体) 病気の予防	◆(学) 大きな災害と人間の心の動き(3章⑤)		・たてわり活動ショート			・交通安全教室
6月	(国) 新聞の投書を読んで意見を書こう (理) 生き物のくらしと環境		◆家族防災会議を開こう(4章④) ・修学旅行・自主研修	・たてわり活動ショート	・避難訓練事前指導	・節度ある生活態度 ・生命尊重	・避難訓練(地震) ・修学旅行 ・集団下校訓練 ・スチューデントシティ
7・8月			◆チャレンジ子ども防災モニター(4章⑤)	・たてわり活動ショート	・夏休みの生活 ・災害時の家族の約束	・家族愛	・高森東夏祭り ・復興サミット ・高東オリンピック ・救命講習
9月	(理) 大地のつくり (理) 変わり続ける大地	◆地震を乗り越えようとした先人の知恵(4章⑨)		(体) 着衣水泳 ・たてわり活動ショート	・絆プロジェクト	・節度ある生活態度	
10月	◆(理) 地震のメカニズムを知ろう(3章①) (国) 町の未来をえがこう				・絆プロジェクト	・郷土愛	・高森東地区防災訓練 ・集団下校訓練
11月				・たてわり活動ショート	・避難訓練事前指導	・生命の尊重	・避難訓練(火災) ・故郷復興プロジェクト
12月	◆(社) 人々をつなげる活動(5章②) (社) 震災復興の願いを表現する政治			・たてわり活動ショート	◆未来へつなぐ(2章③) ・冬休みの生活		
1月	(家) わたしたちの生活と地域			・たてわり活動ショート	・絆プロジェクト		
2月	◆(社) つながる～世界の国々と～(5章①) (社) 世界の中的日本			・たてわり活動ショート			
3月		◆(学) 防災知識をチェックしよう(6章①) ◆(学) 仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)		・たてわり活動ロング	・故郷復興プロジェクト	・生命の尊重	・故郷復興プロジェクト

2 - (2) 生徒会活動等を核にして実践する防災教育

仙台市立上杉山中学校 第1学年

1 学校・地域の実態について

仙台市中心部に位置し、高層マンションが建ち並び、通勤族の家庭も多い。古くから居住している方々を中心に活発な町内会活動が行われている。仙台市の地域防災計画に基づき協議を重ね「上杉地区 避難所開設マニュアル」が完成した。今後、地域と連携した防災活動を推進していく計画である。

2 平成28年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒の育成。
- ボランティア活動を通して災害時に進んで他の人や地域の力となれる生徒の育成。

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

- 生徒の地区別グループを組織化し、自主的に安全確保のできる生徒を育てる。
- JRC活動をはじめとしたボランティア活動の充実により、共助の力を育てる。

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

自然災害の予兆に敏感に意識を働かせ、このような場合はどうしたらよいかを口にする生徒が増えた。地域の一員としての自覚を持ち、環境美化への意識を強く持ったり、地域行事などへ進んで参加したりする生徒が増えた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

1 「急な大雨や雷から身を守ろう」(学級活動)の授業実践

本校は学校のすぐ側に梅田川、学区内及び近郊に地下鉄駅が3駅あるなど、積乱雲の急激な発達によるゲリラ豪雨時に被害が警戒される地域にある。また、本校北側には仙台市の土砂災害危険箇所指定される斜面があり、本校が指定避難所となっている。積乱雲がもたらす大雨や落雷などの自然災害は、本校生徒が直面する可能性が極めて高いものであると考えられる。これらの自然災害によって生徒が被害を受けることを防ぐためには、天候急変の兆しにいち早く気づき、安全を確保するための適切な対処法について学ぶことが重要であると考え、気象庁編「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」DVD利用を活用した授業実践を1学年にて行った。授業の概要は以下のとおりである。



- (1) DVD視聴後、登場人物の判断や行動についてどこが間違っていたのかを考え、ワークシートに記入する。
- (2) 生活班でグループを組み、意見を発表し合う。班の代表者が出された意見をまとめ、学級全体に発表する。
- (3) 解決編を視聴し、積乱雲に伴う自然災害から身を守る方法をまとめ、発表する。
- (4) 防災教育副読本 P48 を読み、災害心理についての理解を深める。

2 避難訓練時における集団下校訓練の実施

3 生徒会、JRC委員会を主体とした、地域清掃の定期的実施

【目標】 災害についての基礎的な知識を知り、学区内の危険箇所を把握し適切に避難できる技能を身に付ける。

防災対応力の構成要素		知識		技能	態度
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳
5	校外学習 JRC地域清掃		絆を力に一步步 (2章①)	急な大雨や雷から身を守ろう	
6	■避難訓練 ■集団下校訓練 JRC地域清掃			自分を守る(4章②) 地区避難グループを知る	
7	JRC地域清掃				
9	大樹祭 JRC地域清掃	理科 3.11の地震を科学の 目でとらえよう (3章②)			
10	職場訪問 JRC地域清掃		校外活動中の避難行動 について		
11	★故郷復興プロジェクト① ◆避難訓練(火事) JRC地域清掃				地域の一員 として (5章②)
12	JRC地域清掃	保体 心の健康を守るために (4章⑦)			
2	予餞式 JRC地域清掃				
3	卒業式 ★故郷復興プロジェクト②			防災知識をチェックしよう (6章①) 仙台の自然災害年表・ 復興年表(6章③)	

仙台市立西山小学校 第2学年

1 学校・地域の実態について

学校敷地の南側が崖になっており、土砂災害危険地域になっている。また崖の下は高野川が流れており、大雨の時は増水する危険がある。児童の半数以上は、その川に架かった橋を渡って登校している。高低差のある坂道が多い学区であり、利府街道を含む交通量の多い学区である。

2 平成29年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 【自助】 災害に関する正しい知識や方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童
 【共助】 進んで他の人や地域の人と協力できる児童

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- ・児童の実態を考慮した各教科と防災教育を結びつけた実践
- ・自らの考えを発信するための防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・各教科の知識が、身を守るための知識として意識付けされてきた。
- ・実践授業を通して学校の避難訓練だけでは不十分だったことに気付き、身を守るための正しい知識を得ようとする態度が育ってきている。(自ら身を守る方法を発信していくことの大切さを学んでいた。)

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

(1) 仙台版防災教育副読本を活用した授業 「大きなじしんにそなえよう」(生活単元)の授業



仙台版防災教育副読本を中心に、紙芝居、教師の体験談、便利グッズの紹介も交えた『ぼうさいリュックを用意しよう』の授業を特別支援学級で実践した。具体的なグッズについて、マグネット板を用いた操作作業や非常時に必要な物の正しい知識と、自分にとって必要な物について自ら考え、友達と会話しながら学び合う授業を実践した。

(2) 校内研究(低学年)で「ぼうさいクイズ」アンケートを活用した授業実践

生活科「まちたんけん」の単元と組み合わせて、通学路の安全を考える授業を構想。そのための事前アンケートでの結果を基に授業実践を行った。

(3) 防災スキル

朝の時間に「防災スキル」の時間を設けている。季節の自然災害や学校行事に合わせて、副読本を中心に図書室の本の活用、各種パンフレット、紙芝居を用いて実践を進めている。写真は校外学習出発前の防災スキル風景。



防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教 科	生活科 【自分たちの町をしろ 地域の人と関わろう】		特 活	道 徳	
	関連行事等						
4	始業式 下校指導 交通安全教室 避難経路確認 避難訓練(地震・不審者)				★ひんんのしかたをかえようB(1) スキル(1)	避難訓練にむけて 大地震 不審者 ②楽しい遠足F(4)	アンパンマンたん生3-(1) E(3)
5	遠足 家庭訪問 運動会 スポーツテスト		どきどきわくわくまちたんけん ・まちのことをはなそう ・まちたんけんにいこう ・まちの人となかよくなる	安全な登下校D(1) スキル(2)		ぼくのわたしの自まん大会1-(2) E(1)F(1)	
6	引渡し訓練	【生活】ぼうさいマップをつくろうC(2)	地域の人と自分から関わるができるように(コミュニケーション)危険箇所確認(交通 大地震 大雨 河川洪水)	スキル(1)	ひんんのときはおちついてE(4)F(1)	あいさつ2-(2) F(4)	
7	西山まつり	【体育】水遊びB(1)	増水 河川洪水	スキル(1)	楽しい夏休みBCDEF	かもうのクス4-(5)EF	
8	奉仕作業(たてわり PTA) 夏休み作品展			スキル(1)			
9	避難訓練(業間地震) 避難訓練(Jアート)	【国語】 ・かんじたことを話したいな ・「ありがとう」をつたえよう B(1) E(4)	もっとなかよいまちたんけん ・まちのことをもっと知ろう ・まちの人ともっとなかよくなる方法を考えよう ・まちたんけんにいこう②	★ぼうさいリュックを用意しようC(1)	避難訓練にむけて 大地震 火災 大雨	かぎのかかった一輪車ごや4-(1) E(4)F	
10	校外学習 避難訓練(火災)		地域の人や町のことをくわしく知ることができるようにしらべたことをしようかいてみよう 危険箇所再確認(交通 大地震 大雨 河川洪水)	スキル(2)		こうたのあさ1-(3) E	
11	故郷復興プロ 学会会 ボランティア感謝の会 ※地域防災訓練			火事の時は★ぼうさいくんれんにさんかしようスキル(3)	地域の避難訓練に参加しよう 大地震	ママとのやくそく3-(1)E(3)	
12		【生活】1年生におしえよう E(4)	ジュニアまつりをひらこう【異学年交流】1年となかよくなる	★つなみについてしろろう A(2)スキル(2)	②楽しい冬休みBCDEF	みんなときめたからまもれたルール4-(2) E(1)(2)	
1	避難訓練(地震放送)	【国語】 ・おばあちゃんに聞いたよ E	コミュニケーション (異学年)	②雪道を安全にD(1)スキル(1)	★つなみについてしろろう A(2)B(1)	学校のまわりには4-(5) E(2)	
2		【生活】1年生におしえよう 異学年交流 E(4)	自分の成長とおうちの人との関わりを知ろう あしたへジャンプ E F	スキル(2)	大地震 津波 3.11にむけて	せかいのどこかで3-(1) E(3)	
3	6年生を送る会 震災の日3.11 卒業式	コミュニケーション (異学年)		・しんさいをふりかえろうA(4)E(2)スキル(1)	★あの日3.11EF	空からのプレゼント3-(3) EF	

★は「仙台版防災教育副読本」

仙台市立南小泉中学校 第1学年

1 学校・地域の実態について

学校所在地は海近くの平坦地であるが、海岸や大きな河川から離れており、東日本震災時で津波の到達はなかった。大雨による土砂崩れの恐れもなく、河川の洪水の恐れも少ない。地域には古くからの町並みが残し、大規模な建物も多くない。古くからの道路は狭く込み入っているため、避難時には支障が生じる。

2 平成29年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 【自助】 災害に対する正しい知識を身につけ、冷静に判断して、臨機応変に活動できる。
- 【共助】 地域活動へ積極的に参加し、地域への貢献を通して自己有用感を持つことができる。

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

保護者や地域と連携した防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・ボランティア登録者も多く、それ以外の生徒も地域のいろいろなボランティア活動に積極的に参加している。
- ・異年齢の地域の方々との活動を通し、うまくコミュニケーションをとる必要性の意識が高まり、人とどう関わったら良いかを考えるようになってきた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

(1) 親子参加型道徳授業参観「アサーショントレーニングを通して」

道徳 内容項目4-(4) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、集団生活の向上に努める相手との間に良い関係を築くためのやりとりや話し方を身につけるために、7月と9月に、3学年合同で保護者を交えてアサーショントレーニングを実施した。3学年縦割りのグループを作り、保護者もグループに入れ生徒とともに参加した。3つの話し方について話し手と聞き手の両方を体験し、感じたことを他者と共有して、考えを深めた。



(2) 70周年記念式典において

同窓会長から過去に校舎が火災で焼失した南中の歴史の話を防災についての意識を高めた。



(3) 地域合同防災訓練

本校の学区内には5カ所の指定避難所がある。早朝に地震が発生した設定で、いっとき避難所から指定避難所に避難する訓練を実施した。その後、本校を指定避難所としている生徒は、地域の方とともに避難所設営訓練を行った。それ以外の生徒は、消防署の指導で、バケツリレーとクロスロードの演習を行い、最後に全体で振り返り活動を行った。

(4) 卒業式での復興ソングの合唱

復興ソングの作詞者が本校の卒業生なので、毎年、卒業生の歌として復興ソングの合唱を行っている。

防災教育年間指導計画 第1学年

防災対応力の構成要素		知識		技能	態度
		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳
4	入学式 対面式 保護者会	・保体…集団行動 ・家庭…わたしの 成長と家族 家族・家庭と地 域 ・技術…情報と私 たちの生活		・安全な登下校指導 ・学級連絡網の確認 ・部活動における安全指導 ・避難経路の確認	2-(2)優しい心
5	校外学習 防犯教室 故郷復興プロジェク ト	・家庭…健康と食 生活		・連休の過ごし方 ・旅行的行事における事前指 導	1-(1)日々の心構え
6	市中総体 第一回避難訓練	・家庭…健康と食 生活		・梅雨時の健康と安全	2-(6) 善意や支えへの感謝
7	授業参観 合唱コンクール 故郷復興プロジェク ト	・家庭…食品の選 択と保存 ・保体…水泳	・地区顔合 わせ	・夏季休業中の過ごし方 ・南中祭へ向けての安全指導	4-(4) よりよい集団づくり
8		・保体…水泳			
9	南中祭 70周年記念式典	・家庭…調理理を しよう ・社会…律令国家 でのくらし 権力をにぎった 貴族たち(副読 本使用)	・防災訓練 事前指導	・地域の一員として(副読本使 用)	4-(4) よりよい集団づくり 4-(2)公德を尊ぶ心 4-(2)好ましい世の中
10	市新人大会 南中リンピック 地域合同防災訓練	・家庭…環境に配 慮した食生活	・地域総合 防災訓練	・部活動における安全指導 ・運動会へ向けての安全指導 ・私たちも立ち上がる(副読本 使用) ・災害時の避難方法 ・災害時の連絡方法	4-(1)きまりの意義
11		・家庭…魚の調理 ・家庭…野菜の 調理			
12	授業参観 保護者会	・保体…心身の機 能の発達と心の 健康(副読本) ・家庭…肉の調理 ・圧力		・冬休みの過ごし方について	4-(5)勤労の尊さ 4-(6) かけがえのない家族
1					3-(1)生命の尊さ
2		・理科…動き続け る大地 大地の変化を読 み取る(副読本)			2-(2)思いやり
3	故郷復興プロジェク ト 卒業式 修業式	・保体…心身の機 能の発達と心の 健康		・春休みの過ごし方について	

1 学校・地域の実態について

JR 仙台駅、榴ヶ岡駅、地下鉄宮城野通駅に近く、交通至便の地域である。近くには、広大な敷地を有する榴岡公園があり、近年は高層マンションが増え、若年人口が増えてきている。榴岡地区町内会連合会並びに宮城野消防署原町出張所、榴岡地区日赤奉仕団の方々と協力しながら、毎年地域防災訓練を行っている。

2 平成30年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

災害に対する基礎的な正しい知識を身に付け、思いやりや優しさなどの感性を働かせながら、自分の生活をよりよいものにしていく。そのために、他者と協働したり、自分なりに試行錯誤したりして主体的に考え、表現、行動できるようにする。

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- ・教科等横断的な視点を重視した総合的な学習の時間を中心とする防災教育
- ・実社会や実生活とつながりのある具体的な活動や体験を含んだ防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・災害の恐ろしさを実感し、自分たちにできることや課題など、防災や減災についての関心が高まった。学んだことや思いを身近な人たちに伝えていきたいなど、主体的に考える姿や意欲的に学ぼうとする児童が多く見られるようになった。
- ・避難訓練などの意義を改めて理解し、目的意識を持って臨むようになってきた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

5 実践の具体 (第5学年)

(1) 密着！地域防災訓練って何？

6月：榴岡地区町内会連合会防災訓練

BFCの一員として訓練を補助する活動や、訓練に携わる消防署員と地域の方々へのインタビュー、訓練の様子を取材する活動を通して、災害が起きたときの対応について知る。



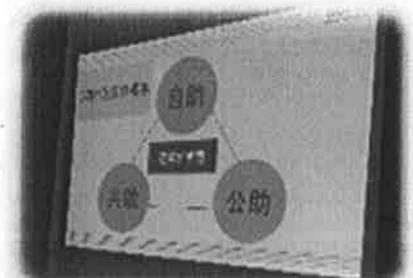
(2) 災害発生！さあ どうする？

10月：仙台青年会議所主催「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」ワークショッププログラムに沿って、「自助・共助・公助」について考える。地域防災ツール「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」を知る。



(3) その時 荒浜に何が起こったのか？

12月：「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」「津波避難タワー」見学 荒浜地区の被害の大きさ、復興や防災の取組を知る。



平成30年度 防災教育年間指導計画 (5年)

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳
	4	1・2年交通教室 放送を聞く訓練 第1回避難訓練 (地震・授業時)		◎セイフティープロジェクト榴岡 ○テーマを知り、見 通しを持つ	※登下校の安全 ※避難経路の確認 ※非常時下校体制の 確認 ※避難訓練事前事後 指導
5	第2回避難訓練 (地震・休み時間対 応) BFC開講式 引き渡し訓練 防犯訓練		○災害を知ろう ○野外活動時の災害 発生時への対応		
6	避難訓練 (校舎内への避難) 防災教室 修学旅行 榴岡地区防災訓練	○けがの防止(体育) ☆応急手当の方法と 救急車の呼び方 (4章⑦:体育)	◎自然となかよし ○防災訓練の参加	☆災害時をくらす ヒント(4章⑥) ※避難訓練事前事後 指導	
7	野外活動 BFCチャレンジ教室 (地域行事への参加) 故郷復興プロジェクト (七夕飾り)				○楽しい夏休み (その他の内容) ☆希望の詩 ～「ない」～ (2章①)
8					○地域行事への参加
9		○着衣水泳(体育) ○台風と気候の変化 (理科) ☆いろいろな自然災害 (3章③:理科)	○水害の恐ろしさ・ メカニズム ○防災(水害から守 るための取り組み)		○命のアサガオ 3-(1)生命尊重
10	放送を聞く訓練	○流れる水のはたらき (理科) ☆心と向き合って (4章⑧:体育)	◎東日本大震災の災 害から学ぶ ○水害の恐ろしさ・ メカニズム ○防災(水害から守 るための取り組み)	○避難訓練 事前事後指導	○2学期を迎えて (その他の内容)
11	第3回避難訓練 (火災・授業時)		○土砂災害に備える (砂防ダム)	※避難訓練事前事後 指導 ☆立ち上がれ!ぼくらの 復興プロジェクト (2章④)	
12			○安心・安全な町つ くり ○人災を起こさない 工夫 ○荒浜小、津波タ ワー見学:語り部		○楽しい冬休み (その他の内容)
1		○家庭科(裁縫)わ くわくミシン	○地域の避難場所 ○裁縫		○生かされている “今”を大切に
2			○防災マップの作成		○稲むらの火で 命を救え 3-(1)生命の尊重 ○世界最弱のヒーロー、 アンパンマン 4-(2)公正公平・正義
3	BFC開講式	○(国語)○自然災 害を防ぐ (社会) ☆津波のメカニズムと 災害(3章②:社会)○ (音楽)	案内嬢作成	☆防災知識をチェック しよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表 ・復興年表(6章③)	○もうすぐ6年生 (希望や目標をもって 生きる態度の育成)

※学級の時間等を活用 / ☆新防災副読本「3・11から未来へ」の活用

仙台市立中田中学校 第3学年

1 学校・地域の実態について

名取川の南側に位置し、平地が広がる環境である。学区が名取川の氾濫による水害の浸水地域になっている。また、側溝等からの流出による浸水も考えられる。学区が広いので、登校に30分以上かけてくる生徒がいる。非常時でも自らの安全を確保するための行動ができるよう指導を行う必要がある。

2 平成30年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、自らの安全を確保できる生徒

【共助】 非常時に進んで他の人や地域の力になることができる生徒

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

・「教科・領域等に関連した防災教育」 ・「保護者や地域と連携した防災教育」

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

(自助) 授業や防災訓練を通して、災害に関する正しい知識や対応方法を身に付けることができ、生徒に告知しない避難訓練でも冷静に判断し、昨年度よりも早い時間で避難することができた。

(共助) 授業や防災訓練を通して、自分に何が出来るかを考え、非常時に進んで他の人や地域の力になれるようにしたいと考えている生徒が増えた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

(1) 『東日本大震災の経験から～いのちの大切さを学ぶ～』(1, 3学年 保健体育)

自然災害の怖さや命の大切さを学ぶ機会として、講師の方を招き、1学年には着衣水泳を、3学年には講演会を実施した。5年前から継続して実施している。

着衣水泳の様子
保健体育



(2) 『防災知識の共有～我が家の防災対策～』(3学年 国語)

資料活用型スピーチの単元で、資料を効果的に活用して我が家の防災対策について1分間のスピーチを行った。

3時間扱いで、1時間目に効果的なスピーチの仕方を知り、2時間目にリハーサルを見合い、効果的なスピーチの仕方を話し合った。3時間目にスピーチコンテストを行った。

講演会の様子
保健体育



(3) 『防災に関する知識～文章問題を通して～』(3学年 数学)

2章平方根、3章 $y = ax^2$ などの単元の活用の中で、防災に関わる問題を提示し、取り組ませた。

例 マグニチュードと地震のエネルギーの間には、
どんな関係があるか。 答 $10\sqrt{10}$ 倍

スピーチ①
国語



(4) 『災害時のコミュニケーション～グループ学習を通して～』(3学年 英語)

Unit4 To Our Future Generations の単元で、災害時に日本語の分からない外国人とコミュニケーションをとる場面を設定し、ALTとの授業を行った。生活班で、状況や回避行動の書かれたカードを重要度順に並べ、分担を決め、英文を暗記し、ALTに伝えた。

スピーチ②
国語



カードの内容

- ・ Go outside. Walk fast.
- ・ Can I get some water? など

英語
班活動の様子



英語
ALTと会話



防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科		学活・総合	学校行事	生徒会	道徳
	4	春の交通完全運動 校内安全点検	特別教室での注意(理科)	集団行動(保体) 情報に関する技術(技術)	登下校の安全 大地震 交通網のまひ	入学式 1学期始業式 非行防止教室	対面式 任命式
5	校内安全点検	用具の使い方(理科) 平方根(数学) 実践(3)	特別教室での注意(美術・保体・技家)用具の使い方(美術・保体・技家)	緊急時の連絡方法 大型連休の安全	校外学習 避難訓練(地震) 大地震	生徒総会 挨拶運動	集団の意義
6	みやぎ県民防災の日 市中総体 校内安全点検	実践(1) 火災	水泳(保体) 大雨, 河川洪水,	雨天時の安全	市中総体と安全 合唱コンクールと安全	激励会 挨拶運動	自主自立
7 8	全国安全週間 夏の交通事故防止運動 青少年の非行被害防止強調月間 校内安全点検	二次関数(数学) 薬品の使い方(理科) 実践(3)	水泳(保体)	一次避難場所の確認 夏休みの安全	地区集会 文化発表会と安全	激励会 挨拶運動	法の遵守
9	防災週間 国民防災の日 秋の交通安全運動 校内安全点検	Unit4 To Our Future Generations(英語) 実践(4)	デザインと環境(美術)	災害時の対応	防災訓練 大地震 大雨, 河川洪水 交通網のまひ	立会演説会 挨拶運動	奉仕
10	安全・安心なまちづくりの日 全国地域安全運動 校内安全点検	話し合って提案をまとめよう(国語) 地方自治と私たち(社会) 実践(2)		秋休みの安全	1学期終業式 2学期始業式 運動会と安全	任命式 挨拶運動	友情の尊さ
11	全国火災予防運動 津波防災の日 校内安全点検			火災時の対応	避難訓練(火災) 火災	挨拶運動	社会連帯
12	年末年始の交通事故防止運動 校内安全点検	課題解決に向けて話し合おう(国語) 三平方の定理(数学)	感染症の予防(保体)	冬休みの安全	新入生授業参観	挨拶運動	郷土愛
1	国民防災とボランティア週間 校内安全点検	自然の恵みと災害(理科) 大雨, 増水, 河川増水, 落雷, 暴風, 大雪		火気の取扱 凍結時の安全 火災		挨拶運動	人間愛
2	校内安全点検		家族・家庭と子どもの成長(家庭)	降雪時の安全 大雪 交通網のまひ		予餞会 挨拶運動	生命の尊重
3	春期全国火災予防運動 校内安全点検	標本調査(数学)		春休みの安全	卒業式 2学期終業式	挨拶運動	社会への奉仕

3-1(1) 単元配列表モデル 小学校【低学年】

小学校【低学年】年間指導計画(単元配列表)モデル

★本ガイドに掲載の単元 ☆仙台版防災教育副読本

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語						・言い伝えら れているお話 を知ろうF(2)					
算数											
生活	・はじめまして E(4)		・たんけんして みよう①C(2)				・たんけんして みよう②C(2)		・じぶんでき ることをしよう E(1)		
音楽											
図工											
体育	・ならんでみよ うB(1)										
道徳		・家族とのさい かい☆E(3)		・ちやくいすい えいB(1)		・動物たちの いのち☆E(3)			・じぶんがしん ごうきE(2)	・いのちがあっ てよかったね E(3)	
学級活動	★あんしん あんぜん がっこうせい かつE(1)(2)	★じしんがお こつたらどう するの☆B (1)		・たのしいなつ やすみB(1)E (4)		・ぼうさい リュックを用 意しよう☆ B(1)	・かじのとき はB(1)	・たのしいふゆ やすみB(1)E (4)			
学校行事等			・ひなくんれ んB(1)E(1)			・ぼうさいく れんにさんか しよう☆ B(1)E(1)					・ふっこうを めざして☆F(2)

3-1(2) 単元配列表モデル 小学校【中学年】

小学校【中学年】年間指導計画(単元配列表)モデル

★本ガイドに掲載の単元 ☆仙台版防災教育副読本

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語				・調べて書く う、わたしの研 究レポートを 書こうF(2)	・お願いやお れいの手紙を 書こうE(4)						
社会	・学校のまわ りC(2)	・くらしを守る B(4)		・住みよいくら しをつくるB(4)						・古い道具と むかしのくら しC(1)	
算数											
理科							・風やゴムで 動かそうA(1)				
音楽											
図工											
体育				・着衣水泳 B(1)				・応急手当の 方法と救急車 の呼び方☆ B(3)			
道徳		・考えよう 友 達のこと☆E (2)	・希望の詩～ 「ない」☆F(2)	大切なこと☆ E(2)	・「もっこ」をせ おってF(1) ・一さつのおく りものE(2)	・ふるさとを 守った大イチョ ウE(3)		・しょうぼうだ んのおじいさ んE(2)		・おじいちゃ ん、おばあ ちゃん、みて いてねE(3)	
学級活動		★命を守る非 常食☆C (1)(2)			★大雨・台風 の水害から命 を守る☆D (2)		・ふるさとを元 気に自分たち にできること ☆F(2)				・震災を乗り 越えて☆F(2)
学校行事等	・災害が起き たら☆B(1)		・避難訓練 B(1)			・地域防災訓 練B(1)	・復興プロジェ クトF(2)X(4)				

3-3(3) 単元配列表モデル 小学校【高学年】

小学校【高学年】単元配列表モデル ☆本ガイドに掲載の単元 ☆仙台版防災教育副読本

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語			・書き手の意図を考えながら新聞を読もうF(2)								
社会							・情報化した社会とわたしたちの生活B(2)	・震災復興の願いを実現する政治A(4)		・わたしたちの生活と環境☆A(1)	
算数											
理科	・物の燃え方と空気A(1)				・台風と天気の変化A(2)	・流れる水のはたらきA(1)×(2) ・大地のつくりと変化☆A(2)E(3)					
音楽				・希望の道F(2)							
図工											
家庭				・じょうずに使おうお金と物C(1)							・共に生きる生活☆B(4)
体育			・心と向き合おう☆E(1)	・着衣水泳B(1)	★防災人としての知恵～けがの手当～☆B(3)						
道徳	・うちねこの手ボランディアA(1)		・家族防災会議を開こう☆C(1)	・土石流の中で救われた命F(3)	・一番大切なことは☆F(3)	・わたしのボランディア体験(1)×(3)		・コースチャボウやを救えE(3)	・東京大空襲の中でE(3)	・小さな連絡船「ひまわり」F(1)×(3)	・一本杉は語ったE(3)
総合							★語り継ごう東日本大震災☆F(2)				
学級活動	・高学年としてE(4)		・家族防災会議を開こう☆C(1)	・地域のリーダーとしてF(3) ・夏休みを有意義にF(3)		★大災害に備えよう☆B(1)		・家族とのつながりC(1) ・冬休みの過ごし方D(1)×(2)	・異学年と交流しようD(2)		・思いをかたみに☆F(1)
学校行事等	・避難経路の確認 登下校の安全B(1)	・非常時下校体制の確認B(1)	・避難訓練(地震)B(1)			・地域防災訓練B(1)	・避難訓練(火災)B(1)				・復興プロジェクトF(1)(2)(4)

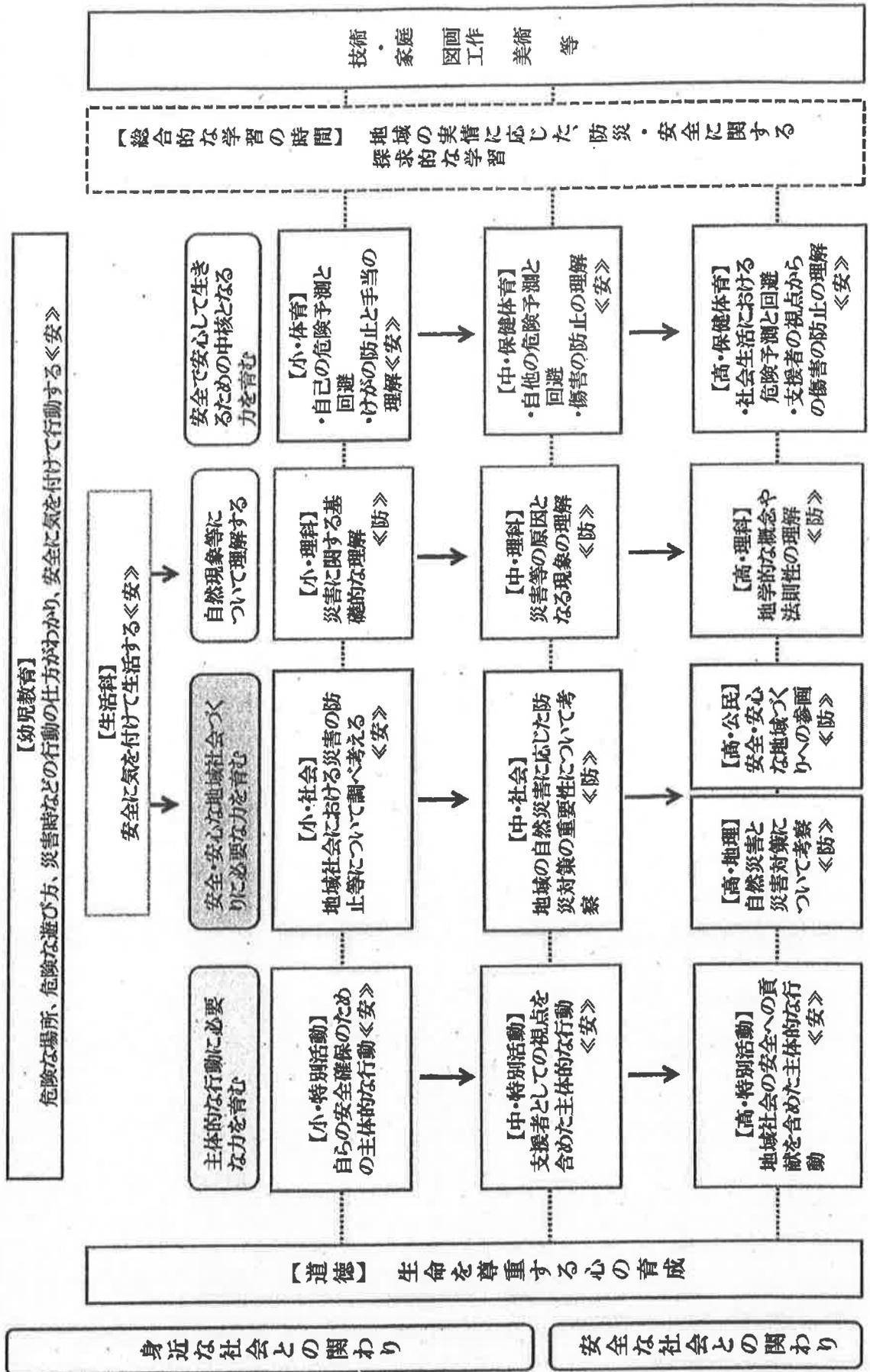
3- (4) 単元配列表モデル 中学校【1年～3年】

中学校【1年～3年】単元配列表モデル ☆本ガイドに掲載の単元 ☆仙台版防災教育副読本

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語					・古典に残る災害を読んでみよう☆A(3)			・震災文庫を作ろう☆E(3)			
社会			・身近な地域の歴史C(2)			・地方自治と私たち☆C(3)					
数学										・資料の整理, 確率A(1)(2)	
理科									・大地の変化A(2)(3)B(4) ・天気とその変化A(2)		
音楽											
美術				・文字や形で伝えるF(1)			・祈りの形F(1)		・わかりやすく伝えるデザインF(1)		
技術		・情報の信頼性B(2)					・住まいの安全対策, 災害への備え☆C(1)				
家庭											
保健体育	・集団行動B(1)	・応急処置の方法☆	・心肺蘇生方法☆B(3)	・着衣水泳B(1) ・AEDの使い方☆B(3)							
英語						・道案内					
道徳	・一歩一歩力強く語り部として☆E(1)		・一冊の漫画雑誌F(1)		・田老の生徒がつけたええものF(1)	・震災の中でF(3)	・心に寄り添う☆E(4)		・ともに育つ☆F(3)		・約束☆F(4)
学級活動	・防災知識をチェックしよう☆A(1)B(1)C(1)		・防災クロスロードゲームD ★避難所開設時, 中学生の私たちにできること☆C(2)F(3)	・夏季休業中の安全D	★自然災害に備えよう☆A(2)(3) ・災害発生時の対応☆B(1)D		★災害心理と正しい情報の手☆B(2)	・冬季休業中の生活D	★「復興への歩み」を語り継ごう☆E(4) ・災害時の安全な行動C(1)	★自分を守る☆D	・春季休業中の生活D ★震災を語り継ごう☆F(2)
学校行事等	・避難方法と避難経路の確認B(1)C(1)	・引き渡し訓練C(1)	避難訓練の意義B(1)			・地域防災訓練B(1)					・復興プロジェクトF(1)(3)

防災を含む安全に関する教育のイメージ

教科等横断的な視点から教育課程を編成



「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学プランについて

H31.2 まちづくり政策局 防災環境都市・震災復興室

<1時間>

順路	見学場所	所要時間	主な見学ポイント等	備考
1	校舎前	5分間	・受入れ、施設概要説明 ・津波が直撃した校舎東側外壁	雨天時は校舎内で説明。
2	1F 保健室・1年1組教室・ 2年1組教室	5分間	・津波により破損した教室 ・ガレキに埋もれた被災直後の校舎内写真	発災時、1Fは完全に水没
3	2F 廊下	5分間	・津波により倒壊したベランダ壁 ・壁や書棚に残る津波の浸水跡	津波は2Fの床上約40cmまで浸水
4	4F 3.11荒浜の記憶 (音楽室)	20分間	・荒浜小への避難から津波襲来、救助までの状況を当時の教員、町内会長の証言に基づき振り返る映像(約17分間) ・津波到達時刻で止まった体育館の時計	当施設のメインコンテンツであり、是非ご覧いただきたい映像(映像視聴用に約30席有り)
5	4F 震災の記憶と明日への備え(まつかぜ学級教室)	5分間	・被災当日の教室での避難状況再現 ・仙台市の津波対策や津波発生のメカニズム ・津波避難施設としての荒浜小	黒板には避難時の班編成の跡が残っている
6	4F 荒浜の歴史と文化/ 荒浜小学校の思い出 (6年1組教室)	10分間	・震災前の荒浜の街並みを再現した模型 ・かつての荒浜の暮らしや明治6年開校の荒浜小の歩みを紹介したパネル・映像	津波で一瞬にして失われた街の記憶を伝える場所
7	屋上	5分間	・海や貞山堀との距離感 ・荒浜地区全体や周囲の現状	強風に注意が必要
8	校舎前	5分間	・質問受け付け ・挨拶	

※ご見学にあたっては、あらかじめ下記までご連絡の上、日程をご調整ください。

※施設スタッフ(本市嘱託職員)による館内のご案内をご利用いただけます(無料)。

※ご案内に際しては、クラス毎またはバス毎など、おおむね40人までのグループに分けてご案内いたします。

※同時時間帯にご案内できるのは3グループまでとなります。120人を超える団体の場合、時間差でのご来館などにより対応できる場合がございますので、ご相談ください。

→荒井駅の「せんだい3.11メモリアル交流館」(車で約10分)の見学や、荒浜周辺(モニュメント・観音像・住宅基礎遺構※)の散策を組み合わせることなどが考えられます。※住宅基礎遺構は平成31年秋ごろ公開予定。

※屋上・4Fから降りた後、校舎の裏側を事務所側へ抜けるコースをとると、給食室の中や体育館跡地も見学できます。

※見学時間は1時間以上が望ましいですが、ご都合にあわせ見学コースの調整も可能ですのでご相談ください。

※見学時間の他、トイレ休憩の時間(5~10分)を考慮した行程をご検討ください。

開館時間

10:00~16:00 ※入館無料

休館日

月曜日および第2・第4木曜日(祝日の場合はその翌日)
祝休日の翌日(土・日曜日、祝日を除く)

問合せ・予約

震災遺構 仙台市立荒浜小学校 管理事務所
TEL 022-355-8517

※館内案内のため不在となる時間帯がありますので、予めご了承ください。

「せんだい3.11メモリアル交流館」の見学プランについて

H31.2 まちづくり政策局 防災環境都市・震災復興室

<1時間コース(通常)>

順路	見学場所	所要時間	主な見学ポイント等	備考
1	1F 交流スペース	20分間	・受入れ、施設概要説明 ・地形と津波浸水域の関係を確認できる沿岸部立体地図 ・定点で震災前後を比較したスライドショー	・立体地図上の6地点については、タブレット端末で360°画像を視聴可 ・交流スペースを使った別展示を行っている場合も有り
2	2F 廊下	5分間	・在仙のイラストレーター・佐藤ジュンコ氏による沿岸部イラストマップ	来館者が思い出等を付箋に記しマップに貼り付ける参加型展示
3	2F 展示室 (常設展示/企画展示)	25分間	・常設展示では、本市の被災状況や復興状況、過去の災害などを時系列で紹介 ・震災の記憶や沿岸部の暮らしなどを伝える企画展示は数カ月ごとに入れ替え	・荒浜で被災した職員の話聞くことが可能 ・企画展の入れ替え時期は、見学できない場合も有り
4	屋上	5分間	・荒井駅周辺の状況 ・東西線の西端(動物公園駅)	雨天時は省略
5	1F 交流スペース	5分間	・質問受け付け ・挨拶	

<40分間コース(最短)>

順路	見学場所	所要時間	主な見学ポイント等	備考
1	1F 交流スペース	15分間	・受入れ、施設概要説明 ・地形と津波浸水域の関係を確認できる沿岸部立体地図 ・定点で震災前後を比較したスライドショー	・交流スペースを使った別展示を行っている場合も有り
2	2F 廊下・展示室 (常設展示/企画展示)	20分間	・在仙のイラストレーター・佐藤ジュンコ氏による沿岸部イラストマップ ・常設展示では、本市の被災状況や復興状況、過去の災害などを時系列で紹介 ・震災の記憶や沿岸部の暮らしなどを伝える企画展示は数カ月ごとに入れ替え	・荒浜で被災した職員の話聞くことが可能 ・企画展の入れ替え時期は、展示室を見学できない場合も有り
3	1F 交流スペース	5分間	・質問受け付け ・挨拶	

※ご見学にあたっては、あらかじめ下記までご連絡の上、日程をご調整ください。

※施設スタッフ(運営受託者の(公財)仙台市民文化事業団)による館内のご案内をご利用いただけます(無料)。

※ご案内に際しては、クラス毎またはバス毎など、おおむね30人までのグループに分けてご案内いたします。

※同時間帯にご案内できるのは2グループまでとなります。60人を超える団体の場合、時間差でのご来館などにより対応できる場合がございますので、ご相談ください。

→「震災遺構仙台市立荒浜小学校」(車で約10分)の見学や、荒浜周辺(モニュメント・観音像・住宅基礎遺構※)の散策を組み合わせることなどが考えられます。※住宅基礎遺構は平成31年秋ごろ公開予定。

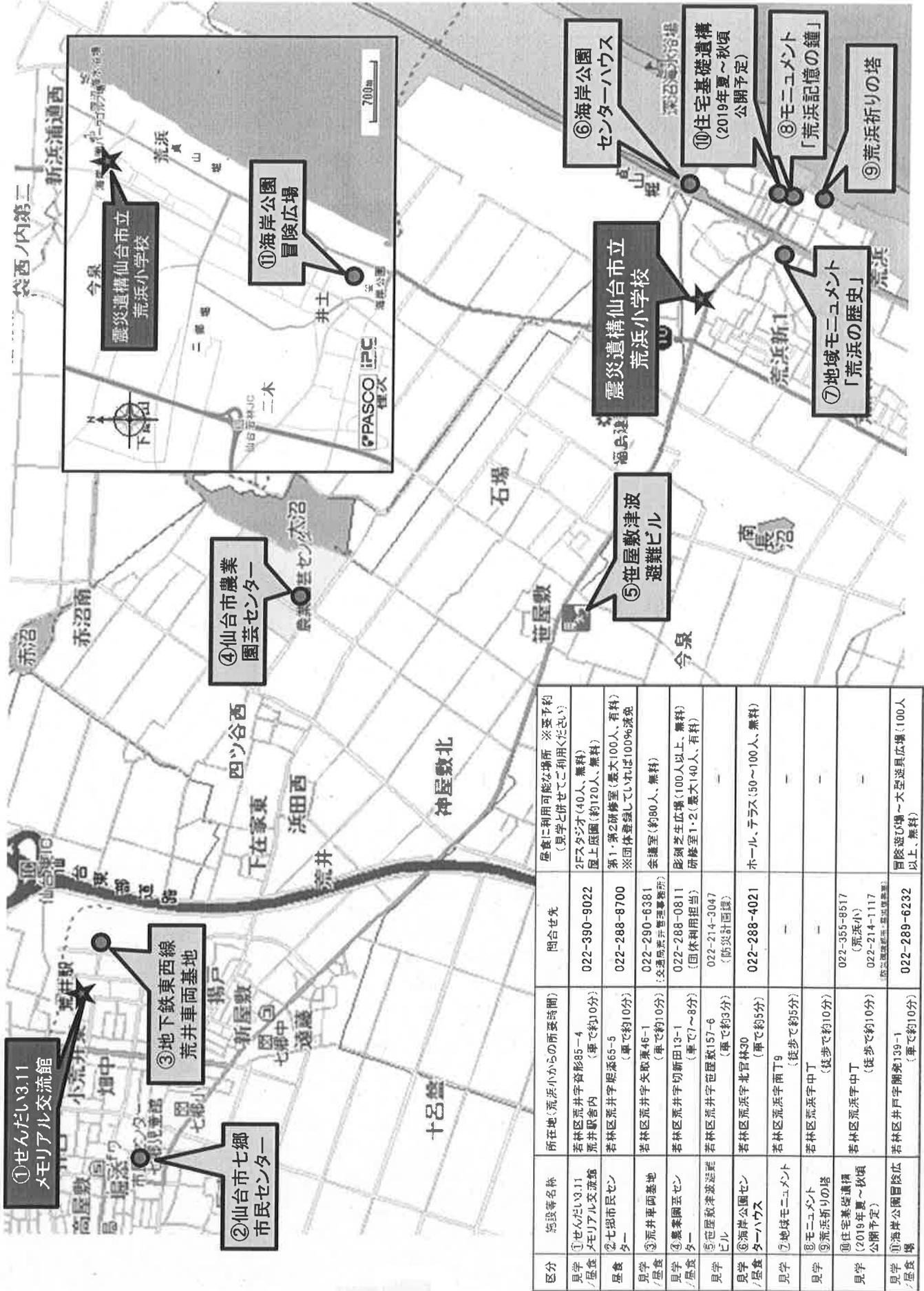
※2Fスタジオ(約40人収容)や屋上を昼食場所としてご利用いただけます。

(2Fスタジオは他団体等の利用状況により使えない場合がありますのでご了承ください。)

※見学時間の他、トイレ休憩の時間(5~10分)を考慮した行程をご検討ください。

開館時間	10:00~17:00 ※入館無料
休館日	月曜日(祝日の場合はその翌日) 祝休日の翌日(土・日曜日、祝日を除く)
問合せ・予約	せんだい3.11メモリアル交流館 TEL 022-390-9022

「震災遺構仙台市立荒浜小学校」周辺地図(見学・昼食ポイント)



区分	施設名称	所在地(荒浜小学校からの所要時間)	問合せ先	昼食に利用可能な場所 ※要予約(見学と併せてご利用ください)
見学 /昼食	①せんだい3.11 メモリアル交流館	若林区荒井字資形85-4 荒井駅舎内 (車で約10分)	022-390-9022	2Fスタンプ(40人、無料) 屋上広場(約120人、無料)
昼食	②七郷市民センター	若林区荒井字肥添65-5 (車で約10分)	022-288-8700	第1・第2研修室(最大100人、有料) ※団体登録していただければ100%減免
見学 /昼食	③荒井車両基地	若林区荒井字大取東46-1 (車で約10分)	022-290-6381 (交通局荒井管理事務所)	会議室(約80人、無料)
見学 /昼食	④農業園五七	若林区荒井字切新田13-1 (車で7~8分)	022-288-0811 (団体利用担当)	庭割芝生広場(100人以上、無料) 研修室1・2(最大140人、有料)
見学	⑤世屋敷津波避難ビル	若林区荒井字世屋敷157-6 (車で約3分)	022-214-3047 (防災計画課)	-
見学 /昼食	⑥海岸公園センターハウス	若林区荒井字北官林30 (車で約5分)	022-288-4021	ホール、テラス(50~100人、無料)
見学	⑦地域モニュメント「荒浜の歴史」	若林区荒井字南丁9 (徒歩で約5分)	-	-
見学	⑧モニュメント「荒浜祈りの塔」	若林区荒井字中丁 (徒歩で約10分)	-	-
見学	⑩住宅基礎遺構(2019年夏~秋頃公開予定)	若林区荒井字中丁 (徒歩で約10分)	022-355-8517 (荒浜小) 022-214-1117 (防災計画課・防災管理課)	-
見学 /昼食	⑪海岸公園冒険広場	若林区井戸字開目139-1 (車で約10分)	022-289-6232	冒険遊び場~大空遊具広場(100人以上、無料)

6 復興ソング

希望の道 (小学校)

作詞 越後 瑠璃 (当時 台原小学校6年)
作曲 かの 香織 遊佐 未森
編曲 佐藤 準

夜空 見上げて 思い出す あの日の星の かがやきを
日差しを浴びて 思い出す あの日の人の あたたかさ
だれもがみんな助け合い だれもがみんな支え合った
あの日のことを 心に刻み 前をしっかりと 見つめながら
歩いていこう 未来への道を

雪のまう日に 思い出す あの日の夜の 冷たさを
ラジオの語りに 思い出す あの日が教えてくれたこと
日本中が助け合い 世界中が支えてくれた
あの日のことを 心に刻み 前をしっかりと 見つめながら
歩いていこう 希望の道を

だれもがみんな助け合い だれもがみんな支え合った
あの日のことを 心に刻み 前をしっかりと 見つめながら
歩き続けよう 希望の道を 希望の道を

仲間とともに (中学校)

作詞 薮内 海美 (当時 南小泉中学校2年)
作曲 かの 香織 遊佐 未森
編曲 佐藤 準

私には何ができるだろう 感謝の気持ちを忘れないこと
復興を心から祈ること 優しさと笑顔をみんなに届けること
不安で前が見えなくなったあの日から

私たちは歩き始めた 未来という光を目指して
前へ前へ仲間とともに 一步一步力強く

私には何ができるだろう 思いやりの心を忘れないこと
街中の幸せを願うこと 残された命を精一杯生きること
大事なものを失くして泣いたあの日から

私たちは歩き始めた 大好きなこの街を抱きしめ
前へ前へ仲間とともに 一步一步力強く

私たちは歩き始めた 大好きなこの街を抱きしめ
前へ前へ仲間とともに 一步一步力強く

※『復興ソング』の楽譜及び音源は、下記URLにて配信しています。

<http://www.sendai-c.ed.jp/~soudanka/H25/project/song/index.html>



7 防災教育に関する資料 リンク集

- ・ 仙台市教育センター <http://www.sendai-c.ed.jp>
(仙台版防災教育) (仙台版防災教育副読本)
- ・ 仙台管区気象台 (防災教育のページ) <http://www.jma-net.go.jp/sendai/menu/kyoiku.html>
- ・ 仙台防災タウンページ
<http://www.city.sendai.jp/anzensuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/townpage/townpage.html>
- ・ 仙台市浸水想定区域図 (内水ハザードマップ)
<http://www.city.sendai.jp/gesuido-kekaku/kurashi/machi/lifeline/gesuido/gesuido/gaiyo/shinsui/naisui.html>
- ・ ハザードマップ等 (各種災害の危険予測地図)
<http://www.city.sendai.jp/kikikanri/kurashi/anzen/saigaitaisaku/hazardmap/map.html>
- ・ 防災危機管理 e カレッジ (総務省 消防庁) <http://open.fdma.go.jp/e-college/>
- ・ 国土交通省 気象庁 <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・ 防災情報のページ (内閣府) <http://www.bousai.go.jp/>
- ・ 防災科学技術研究所 自然災害を学ぶ
http://www.bosai.go.jp/activity_general/index.html
- ・ 国土交通省東北地方整備局 出前講座
<http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00097/k00360/akabi-hp/demae/demae-index.htm>
- ・ 仙台市危機管理室 防災・緊急情報
<http://www.city.sendai.jp/kikikanri/kurashi/anzen/saigaitaisaku/sonaete/joho/index.html>
- ・ 震災資料室 (神戸市) <http://www.city.kobe.lg.jp/safety/hanshinawaji/data/>
- ・ 阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター <http://www.dri.ne.jp/kids/>
- ・ 地球キッズ 探検隊 (地震調査研究本部) <https://www.kids.jishin.go.jp/>
- ・ 3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター
(せんだいメディアテーク) <http://recorder311.smt.jp/>
- ・ 震災伝承館 (国土交通省東北地方整備局) <http://infra-archive311.jp/>
- ・ 震災遺構 仙台市立荒浜小学校
http://www.city.sendai.jp/kankyo/shisetsu/ruin_arahama_elementaryschool.html
- ・ せんだい 3.11 メモリアル交流館 <http://sendai311-memorial.jp/>
- ・ Web 版「わたしの防災から、わたしたちの防災へ」 (宮城教育大学)
<http://drr.miyakyo-u.ac.jp/arahama/>
- ・ 復興ソング <http://www.sendai-c.ed.jp/~soudanka/H25/project/song/index.html>

「仙台版防災教育実践ガイド」(改訂版)

編集委員会

<アドバイザー>

東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健
東北工業大学 教授 小川 和久

<委員>

主幹教諭 飯田 毅 (仙台市立将監中学校)
主幹教諭 國分 晋一 (仙台市立七郷中学校)
主幹教諭 菅野 宏一 (仙台市立高砂中学校)
主幹教諭 宮内 周 (仙台市立五城中学校)
教諭 木村 慎吾 (仙台市立片平丁小学校)
教諭 千葉 千鶴 (仙台市立福室小学校)
教諭 古元 智子 (仙台市立宮城野小学校)
教諭 渡邊 桂子 (仙台市立七北田小学校)

<協力>

教育センター 主任指導主事 大友 重明
防災環境都市・震災復興室企画推進担当課長 橋浦 潮
防災環境都市・震災復興室企画推進担当係長 高橋 友貴

<事務局>

教育指導課 課長 岩田 光世
教育指導課 主幹兼教育課程係長 本郷 栄治
教育指導課 主任指導主事 鳩原 淳子

【参考文献等】

- 「ともに、前へ」 (仙台市中学校長会, 宮城教育大学教育復興支援センター制作 DVD)
- 「高砂中防災ノート」 (仙台市立高砂中学校)
- 仙台版防災教育副読本「3.11 から未来へ」 (仙台市教育センター)

平成29年3月 初版発行

仙台市教育局学校教育部教育指導課

平成31年4月 第2版（改訂版）発行

仙台市教育局学校教育部教育指導課